

つてゐます。其他兩親の飲酒毒、難産、頭部の外傷、精神的感動等から來ます。

病狀 重症癲癇は發作の起るまへに多く前驅のあるものです。知覺異常、腹鳴、筋肉痙攣、皮膚の蒼白及び不快な臭覺等がそれです。それから固有の發作が起ります。患者は突然意識を失つて卒倒します。同時に顔面及び身體が蒼白となり、ビク／＼手足及び顔面筋肉の強直性痙攣を起し、眼球を回轉し鬪牙を來し、口から泡を吹きます。また舌を咬んで血を出します。痙攣發作が止むと昏睡に陥ります。輕症のものは眩暈及輕度の失神で済む場合で患者が談話中などに突然一時虛神状態に陥るのですが卒倒しないですぐ醒めます。

手當法 酒を禁じ、淡白な食物を與へ、結婚を禁じ、授乳中のものは乳を廢します。

今發作が起ろうとする時一握りの食鹽を飲むか、手足を堅く縛ると、發作の起らないですむ事があります。冷水摩擦、轉地、電氣療法を行つてもよい事があります。

精神病と療法

◇遺傳的痴呆

春機發動期の十五六歳から二十四五歳の間によく、遺傳素質によつて起るもので、完全に治癒することの甚だ少ないものであります。

本病にも種々の程度があり、一定の業務に従事し得る程度から、全く重い痴呆状態で、生ける屍同様に憐れむべきものもあります。

◇麻痺性痴呆

これは俗に云ふ腦毒毒であります。精神病患者の三分の一はこの病氣で占めてゐるほどであります。この療法は腦毒毒の項を御覽下さい。

◇老人性精神病

老年期、五十歳前後から起る病氣で老人性痴呆及び、動脈硬化症性精神障得です。前者は生命も危いが、後者は療法により治ります。

◇躁病と鬱憂病

十五歳より六十歳頃までに起るものに躁鬱病があります。原因は素質が悪いために起るもので、快活で多辯で多動、放歌、また時に暴行します。これは躁病で、気分陰鬱となり、よく泣き、言葉も運動も少くなります。これが鬱病であります。この病氣は屢々食事をせぬ事があり、自殺を圖ります。自殺者の多数は本病の初期でありますから注意しなければなりません。此の躁鬱病はよく治るので、半年、長くて二三年です。一度全治しても一生に二三次は再發することがあり、それが本病の特徴であります。

◇精酒中毒症

飲酒の習慣の關係上この病は三十歳以後に多く、症状は酒客嫉妬妄想と云つて家内が姦通してゐるなどと疑ふのがあります。この考へ一ツが間違つてゐて外は異狀ありません。禁酒と適當な治療で全治します。

◇妄想狂

これは神経病患者の違つた考へで、他人がいくら教へても訂正出来ないものであります。中毒

妄想では「人が自分に毒を盛る」「この茶碗に毒がある」等考へます。

其他嫉妬妄想、誇大妄想などがあります。これ等妄想狂者には、間違を指摘し訂正するのはいけません。かへつて妄想を深くし、口論のために感情を激せしめる事になりますから患者が妄想を忘れる様に仕向けます。

以上の精神病患者は醫師の指圖を受けて、適當の保護法をとらねばなりません。特に注意すべきは自殺、逃亡、暴行であります。それ等の危険あるものは、嚴重に監視するか、豫防法をとらねばなりません。

◇入院療法

精神病患者は、ある特別なものを除いては、多分の危険を藏して居るのですから、その安全と治療の目的として入院療法を必要とします。

脊髓の病氣とその療法

◇急性脊髓膜炎

原因 本病は單獨に來る事は稀で、腦膜炎と同時に、腦脊髓膜炎として現われる事が多いのです
病狀 項部強直、脊椎の壓痛、四肢の攣縮筋肉強直、疼痛を起し、熱が出ます。病氣の度が進むと、刺戟症狀が痲痺症狀と變り、手や足が動かなくなり、大便や小便も出なくなります。
手當法 腦膜炎の手當と同じです。大便の出なくなつた時は洗腸を行つたりして取りま

◇慢性脊髓膜炎

原因 微毒、酒精濫用、脊髓炎等から來ます。急性から續發することもあります。
病狀 急性の場合と同様の狀態が緩慢に來るのです。
手當 原因に注意してそれを治療につとめた臨機の處置を取る外はありません。

◇脊髄炎

原因 感冒、過勞、外傷、微毒、腸チフス、結核から起ります。
病狀 兩足に力がなくなつて、歩きにくくなります。皮膚に蟻走感覺等を起し、膀胱や直腸の

痲痺が來て、大小便が出難くなります。

手當法 原因が微毒にある時は成るべく早く、驅微療法を行ひ、また場合によつて沃度加里をのませたり、電氣をかけたります。

◇脊髄癆

原因 微毒の第四期とも云はれるもので、微毒に感染してから數年または數十年の後に起ります
病狀 足に神經痛の様な痛みが來り、胸や腹の周圍に帶狀感覺があつたり、瞳孔が光に對して反應しなくなります。次で手や足の調子がおかしくなつて、歩き方がフラ／＼し出します。小便がでなくなり、其上延髓球痲痺の容體が現はれて、話をしたり、物を嚥下することが困難になります。又その經過中内臟發症と云つて、胃腸、腎臟などの猛烈な痛みが來て困ることがあります。

手當法 驅微療法を行ふのですが、腦微毒の處で申した様に、腦や脊髓の微毒は、外の場所の微毒と違つて、治療が非常に困難であり、結果が現はれにくいものですから最初から、その心算で辛抱強くなければなりません。

脊髓カリエスの療法

この病氣は割合に多い病氣です。脊骨の一つを壓へると痛みます。脊の運動に際しては平滑に曲りません。次で脊骨の一つが突出する様になり、脊椎骨のうちには大切な脊髄があります。これを壓迫するやうにもなります。脊髄が壓迫されると、甚しい劇痛を生じ壓迫された部位から以下は麻痺します。それで歩行も出来ず知覚も全くなくなります。こんな脊椎カリエスは申すまでもなく脊骨の結核であります。

一般に結核は治り難いがこの病氣は同じ結核でも、療養の方法さへよければよく根治するものであります。

手當法 コルセットもよく使用されますが根治のためには板床に蒲團を敷き、その上に仰臥し、絶對安靜を守るのです。一日に一度乃至二度食事と洗面のために起きる程度に嚴重にします。そして充分榮養に注意します。

神経痛とその療法

◇神經痛

原因 感冒、外傷、中毒、微毒、糖尿病、腸チフス及婦人生殖器などから來ます。

病狀 其の痛みは、刺すか、えぐるか、焼くやうな性質であり、其の持続も様々であります。そして神経系路の一部分を壓すと特に痛みます。

手當法 感冒が原因があればその手當をなし、微毒が原因の時は驅微療法をいたします。

神経痛には犯された神経によつて、三叉神経痛(顔面)、後頭神経痛(後頭)、肋間神経痛(胸)、腰腹神経痛(腰臀部)、坐骨神経痛(臀部から脚の後側を傳はつて足趾まで痛む)、關節神経痛(膝などの關節に來易い)等と稱へられます。

手當としては原因をよく調べ、血液の循環をはかり、電氣、入浴等を應用します。

かういふ絶對安靜を半ケ年乃至三四年もつゞけると治ります。

リュウマチスの療法

◇急性關節リュウマチス

これは、熱性の急性全身病です。初めに高熱をもつて始まり、膝、足、手の關節の一つまたは數ヶ所に、痛みや腫れを起します。心臟を胃すことがしばしばで、殊に後で心臟瓣膜症を起すことがあります。これと同じ病氣で淋毒性の關節炎があります。

手當法 病の初め適當な處置をすれば、多く治るものです。疼痛のある關節には硼酸水、明礬水、鉛糖水等で温濕布するとよいのです。病室の温度を寒くない様にして、食物も消化し易いものを選びます。

◇慢性關節リュウマチス

病狀 各關節を胃し、そこだけが痛み出すこともあり、また腫れることもあります。またそれが案外容易に治ることもあります。

手當法 遺傳的にも来るから、よく考へて特に痛風とは密接な關係がありますから、よく原因的に治療する事が大切であります。住居の湿度や温度にも關係があります。出来れば温泉（鹽泉、炭酸泉、硫黄泉）療養がよいのです。悪い關節を絶対に動かさない事は、却つて關節の強直を起しやすいから、マッサージや局部の温罨法も痛みを去ります。

◇疝氣、腰痛の療法

原因 腹部内臓の疾患、例へば胃腸病、盲腸炎、膽囊炎、骨盤の病、婦人では、喇叭管、卵巢の病、男子では攝護腺炎、淋病等から起るものです。

病狀 痛みは腰部から下肢に放射することがあり、單なる鈍痛から灼熱されるやうな疼痛まであります。また何とも云へぬしびれや知覺異常の伴ふこともあります。主として腰や肩や腕にも起ります。放射する痛みは一切疝氣と云つてもよいでせう。

手當法 平素の攝生が大切であります。常に新鮮な野菜、果實をとり起床時の冷水飲用、便通の

習慣を守りたへず適當な運動をし規則正しく生活します。また夏から秋にかけて寝冷を注意し、下痢や腸内異常酸酵を起す様なことは避けることです。

◇肩の凝りと療法

肩の凝りは習慣性のもので、不自然の姿勢で熱心に仕事をするとか、淋巴腺(頸)が腫れたことなどが原因します、肩のこりの初めは出来るだけ辛抱してゐる事が大切です。凝ると云つて按摩をする習慣となります。また常習性の肩の凝りは按摩を止める事が第一です。全身のマッサージや運動をなし、辛抱出来ない時には、肩の筋肉に食鹽水、ミオトニン等注射します。

人間の馬鹿が利巧かは、その腦重に非常な関係があります。今日の統計によると普通人の腦重は一三〇〇グラムが平均量であるが、左は「偉人の腦重」として名聲ありし人々の死亡年齢に計られたものです。

(人名)	(死亡年)	(腦重瓦)
ビスマルク	八五	一、八〇七
カント	八二	一、六五〇
桂太郎	六六	一、六〇〇
ナポレオン三世	六五	一、五〇〇
ワイルソン	六一	一、四八九
ハイネ	五七	一、四三〇
夏目漱石	五〇	一、四二五
ダンテ	五六	一、四二〇
シュニベルト	三一	一、四二〇

齒科

齒の健康法

◇齶齒に就て

齒の病氣のうちで、一番多いものは齶齒です。原因は、生れつき齒の弱いために起ること、日常齒の掃除を怠るためとの二つに大別出来きます。

最も大切なのは、生れつき齒の弱いと云ふ事で、これは非常に齶齒に罹り易いのであります。人間の齒の大部分はカルシウムから出来てゐます。で生れつき齒の弱い子供は、母胎にゐるときに、その母胎にカルシウムが不足してゐたからであります、これは全く治療の出来ない事なのでありますから母となるべき人は餘ほど注意しなければなりません。

齒の掃除を閑却すると、齒齒になり勝ちなものです。もとく齒の珐瑯質は、硬い代りに酸に對して抵抗力が弱く、一面非常に脆い性質があります。

口の中に食物の滓が残つてゐて、酸酵し、細菌の作用で分解して、乳酸と云ふものになると、それが齒の表を胃して虫齒をつくります。砂糖や、お菓子などが齒齦につき易く他の物を食べた時よりも乳酸が多く出来るので、甘い物を食べた後で含漱しなかつたり齒を磨かなかつたり、すると齒齒にならずには居りません。

◇蟲齒の豫防法

蟲齒を根本的に防ぐためには、先づ胎兒を丈夫に作り上げることです。そのために、妊娠の前半期までには母胎に充分なカルシウムと齒の石灰化を助けるビタミンに富んだ食物を攝取する事が大切であります。

また蟲齒は、妊娠、貧血等からも起ります。

症狀 齒に囊狀の穴が出来て、それが劇しく痛むのです。本來の蟲齒は、最初に珐瑯質を侵し、

次に象牙質を侵し、次第に齒髓まで胃すので齒髓まで来ると其處に神經が来てゐるからシクシクと痛みを覚えます。手當を怠ると併發症として顎骨膜炎、骨髓炎等の危険な疾病を發する恐れがあります。

手當法 痛み出したら先づ二七倍の重曹水でよく含漱をして後、クレオソート或は石炭酸、或は沃度丁幾等のやうな腐蝕性の藥物を脱脂綿に浸して、穴の中につめると痛みが止まります。

◇齒髓炎

これは齒痛の中で最も多いもので、俗に齒の神經がジクジク痛むと云ふのがこれです。蟲齒が甚くなつて初めは單に冷めたいものや、甘いものを食べた時に、泌みたりする程度ですが、次第に進んで来ると熱いものを攝つても泌みて來ます、やがては食物を噛み合せても痛むやうになり、甚くすると齒に窩が出来ても云はれぬ位痛くなり夜もねむれぬほどであります。

手當法 一時的の鎮痛法としては、蟲齒の窩に溜つてゐるものを綺麗に除けて、三%の重曹水で含漱をして更に仁丹様のものを噛み碎いて、窩に入れると痛みが止まります、完全に治すにはやは

り歯科醫の手を待たねばなりません。

◇齒根膜炎

これは齒の根を被ふ膜に炎症を起すので、これに罹ると、齒が浮いて來ます。齒を噛み合せたり叩いたりすると、ズキンと痛んで甚くなる痛みを辛抱する事が出來なくなり、頭半分が痛み出し、淋巴腺まで痛んで來ます。齒齦のところ腫れ上つて來る事もあります。

手當法 救急の手當としては、痛みを軽くするために、外側から冷罌法を（氷で冷やす）すると軽くなります、口中に氷を含むだけでもよいものです。

◇齒槽膿漏

これは俗に「はくさ」と呼んでゐます。齒齦でなくても、指先で齒肉を押すと齒と齒肉との間から、少量の膿が出る病氣で齒を受けてゐる槽の粘膜が腐つて來たものです。厭な口臭が伴ひます。時に急性の發作を起し、痛みを訴へ、腫れて來て、發熱しますが、多くは慢性に來ます。慢性は痛みもなく、何等の苦痛もありませんが症狀が次第に進むと、齒が緩んで來て動くやうになり、力

を入れて噛むと、痛くなつて充分に噛めないやうになります。

手當法 直ぐに歯科醫の診察を受けねばなりません、齒石を除けて貰ひ、齒と齒肉の間を度々消毒すると膿の出るのを止める事が出來、同時に異様な悪臭も止ります。

◇口臭の原因とその療法

1、胃腸や肺から來る口臭、胃腸や肺が悪いため悪臭あるときは鼻で呼吸させて見るとすぐ判ります。これはこの原因をなす胃、腸、肺の病氣を治さねばなりません。

2、食物から來る口臭、臭ひの多い食物、を食べたのちにあるものであるが、これは食後に含漱をするか仁丹をのめば防ぐ事が出來ます。

3、齒齦から來る口臭、これは食物の殘片が齒齦の穴に入つて腐敗し、醗酵して悪臭を放つので先づ齒齦を完全に治します。

4、齒槽膿漏から來る口臭。
5、口腔炎から來る口臭、是は食鹽水か、硼酸水の含漱をなし、常に齒を丁寧に磨きます。

耳 鼻 咽 喉

耳の病氣と其の手當法

◇外聽道の濕疹

これは、耳の中を不潔にしたり、小揚子や、マツチの棒などで搔いて傷を拵へた時、或は海水浴のあとなどに、よく耳の孔や、耳朶が赤く腫れ非常に痒く、手を觸れないではゐられない様になる事があります、搔けば爛れて薄い分泌物が、少しづつ出、痂皮になります。

手當法 耳の中を清潔にして、五〇%のオイルチンク、或は、グリテールバスタを塗布します。石鹼で洗つては不可ません。

◇急性中耳炎

原因は、外聽道の方から、鼓膜を穿通して、鼓室に病菌の侵入した場合です。例へば、耳かきで鼓膜を破つたとき、殴打されて鼓膜の破れた時などで、單に水泳などで、耳に水が入つても鼓膜が健全なれば決して中耳炎になりません。

症状 急に高熱が出て悪寒がして、劇しい耳痛から偏頭痛を伴ひ、多量の膿が出て、耳がきこえないと云ふ様な、激烈な症状で來ることもあれば、最初はたゞ風でもひいた様に、鼻がつまり、耳が塞がった感じがして、それがだん／＼強くなり、絲を引く様な粘液が出て來ると云ふ場合もあります。

小兒の場合は、呼吸器や、消化器の疾患以外に、發熱のある時は、中耳炎に疑ひを置いて、早く醫師の診察を受くべきであります。

手當法 第一に絶對安靜にする事、患部を氷嚢で冷やすか、冷濕布を施し、解熱鎮痛を兼ねて、アスピリンを服用します。

もし膿が出初めたら、耳腔に膿が溜らない様に手まめに拭つておくことです、細い棒の先に綿を

巻きつけて、オキシフルに浸して拭へば綺麗になります。
しかし中耳炎は場合によつては、膿が骨の隙間を通つて深く侵入し、危険な結果になることがあるので、排膿をはじめて尙、痛みのある様な時は早く専門醫に鼓膜切開をして貰ふことです。

◇慢性中耳炎

急性中耳炎を反覆した結果あるひは中耳炎の治療の時機を誤つた場合などから起ります。

症状は持続的に耳だれが出てそれが、悪臭を帯びる事があります。そして鼓膜の破れたのが塞がらず、時に眞珠腫や、腐骨を發生する事があります。

手當法 單に鼓膜と、穿孔の排膿だけならば時々専門醫の監督のもとに洗滌をくり返してゐれば癒りますが、鼓膜の孔は残ります、もし腐骨や、眞珠腫があれば危険な合併症を惹起する事がありますから、根治手術をする事が必要であります。

◇中耳炎の豫防法

- 1、感冒を引かぬ様注意する事。
 - 2、鼻を強くかまぬ様にする事。
 - 3、咽喉の病氣をせぬ様に、戸外から家に入るときは必ず含漱すること。
 - 4、水泳のとき、不潔な水に入るのはよくありませんから、耳に青梅綿の栓をすること。
- 乳兒の場合の注意 乳兒は入浴させるときばかりでなく、授乳に乳が口から溢れて耳に入るやうなことがありますから、なるべく乳兒を仰臥させて乳を與へぬ様に母乳の多い人は特に注意を要します。

鼻の病氣と其の手當法

◇急性鼻加答兒

これは一般に鼻感冒と云はれてゐます。塵埃や毒瓦斯を吸ふとか身體の一部分が冷却すると云ふ様な罹病動機が加つて起るもので、薄弱な體質者が容易にかゝり易いものですが、平常の攝生

が悪ければ強壯な體質の人でも容易にかゝります。暴飲の直後、疲労の際などには、注意を要します。

症状 發熱し、鼻汁分泌（みづばな）を増し、くしゃみやみが頻發し、嗅覺が減退し、鼻がつまつて頭痛がしたりします。

手當法 安靜にして全身を安らかに温めること、「アスピリン」などの發汗劑を服用します。

◇乳兒の鼻閉

乳兒はよく鼻加答兒を起すものです。そのために鼻道呼吸が困難になり乳が飲めなくなつて、且つ睡眠が妨げられ、非常に疲労し、それが長く續くと遂には、榮養不良に陥る事があるばかりでなく、鼻腔から咽喉、氣管へと進み、副鼻腔炎や中耳炎、または肺炎を起すことがありますから、特に乳兒の鼻カタルは注意を要します。

手當としては脱脂綿を細く繕りその先にオリヅ油をつけて鼻の孔に通しますと塞つたのがよく通る様になります。

◇慢性肥厚性鼻炎

原因は急性鼻加答兒の反覆、飲酒、便秘、心臟病、腎臟病などの場合に起る鼻腔粘膜の持続的膨血など。

症状 鼻つまりが必ず起ります。初期は左右交互につまり、或は就寝時に限ると云ふやうですがだん／＼甚くなると兩方ともつまつて鼻呼吸が困難になります。その他の症状としては、頭痛、頭重記憶力減退、不眠などであります。

手當法 専門醫の診察を受けて手術による外に療法はないやうですがこれは醫師も患者もきわめて慎重に行はねばなりません。

◇臭鼻症（はなぐさ）

原因は、ある病菌の感染とするものであると云ふ説もありますが、一方では慢性鼻炎が一層増悪した結果であるとも云はれてゐます。

症状 惡臭、鼻甲介の萎縮、痂皮の三症候を特徴とします。惡臭は極めて不愉快な症状の一つで

烈しい場合は同室に同座出来ない場合があるさうです。

手當法 今まで種々の方法が試みられても適當なものはないやうです。

一時的の手當としては一%の食鹽水或は二%の硼酸水で鼻洗滌をして惡臭を防ぎます。

◇急性蓄膿症

原因は烈しい鼻加答兒、例へば流行性感胃、チフタリー麻疹で誘因としては體質や、飲酒が伴ひます。

症状 鼻がつまり、水様分泌物の増加からだんく變じて濃厚な黄色い鼻汁が出る様になる事、頭痛、倦怠感といふ様な症状は一般的のもので一方部位的の關係から、症状に多少の相違がみとめられます。

即ち前額竇に膿のある場合は、特に眉のあたりから兩眼の間に、烈しい痛みを訴へることがあつて、時には嘔氣さへ催すことが少くはありません。

手當法 急性の間は藥をつけるとか、鼻洗法などの姑息的療法で治ります。中には全然抛つてお

してさへ容易に治つてしまふことも少くありません。

攝生法としては酒類を慎むこと、過激な運動、或は俯く仕事をさけること便通をととのへる事等です。

◇慢性蓄膿症

直接の原因としては急性蓄膿症、蟲齒、誘因としては體質、飲酒、鼻中隔彎曲などであります。

症状 膿性鼻汁が少量に出て、或は咽喉側に流下し、時には惡臭を感ずることがあります。頭重く頭痛を催し、記憶力減退、いくら睡眠をとつても不十分に感ずるなどであります。

療法 必ずしも手術しなくともよいので、單に室内の洗滌を數回したとけでも立派に療る例は少くありません。しかし洗滌法を行つても排膿の止まない様な場合には結局根治手術を必要とします

◇鼻茸

多くは蓄膿症の膿汁の刺戟から起るものであります。

症状 鼻閉、頭痛などで稀には鼻茸が成長して鼻孔から見える事があります。

手當法 鼻孔から手術的にきわめて容易に取去る事が出来ます。

口腔及び咽喉の病氣と手當法

◇口内炎

水銀中毒、喫煙過度、熱性病等から多く起ります、又生齒期の小兒はよく發します、其他婦人の月經期、産褥期等にも併發する事があります。

症状 口腔内が赤く腫れて痛み、舌の周縁には小豆大の斑粒が出來て、それが疼痛を訴へ、隨つて飲食に困難を來し、分泌物のために口内に臭氣を發する等であります。

手當法 速かに原因病の治療をします。

口内を清潔にし、時々含漱するとよい。

哺乳兒には、母の乳嘴を清潔にし、哺乳後にも乳兒の口内を清潔にします。この時は、五十倍の硼酸水をガーゼに浸し、指の先に巻きつけて、よく口内を拭つてやります。

◇急性扁桃腺炎

一般に云ふ扁桃腺とは、口腔の奥底にあるもので、正確には口蓋扁桃腺と云はれ、咽喉の左右兩側に一個宛在ります。

この扁桃腺が一番目につき易く、しかも一番病氣に罹り易いのです。

原因 流行性感冒、鼻加答兒と同様に、塵埃や毒瓦斯の刺激、飲酒等によります。

症状 著しいのは突然惡寒して、發熱四十度近くに上ることがあり、物を嚥むと苦しく咽喉粘膜炎が腫れ上つてゐます。

手當法 第一に安靜にして頸部には、氷嚢または濕布をし、重食メント水（重曹五・〇食鹽、一・五、メント水五・〇に水を加へて、五〇〇・〇瓦としたもの）で度々含漱をすることあります。

◇慢性扁桃腺炎

急性扁桃腺炎の反覆、口呼吸を持続的に行つた場合、塵埃、有毒瓦斯を持続的に呼吸した場合、便秘、副鼻腔蓄膿症、心臟病による慢性、うつ血等が原因します。

症状 扁桃腺肥大となり、呼吸障碍、頭痛等を引き、患部が赤くなつて来て、両側口蓋扁桃腺が相觸れるために異物感を起して咳のやうなものを出す。

手當法 大體急性の場合と同様の手當をすれば三四日で治るものであるが、反覆の懼れをなくするためには根本的に治療しなければなりません。根本治療には手術によつて扁桃腺摘出を行ふのです。手術後は醫師の指導の下に適當な處置をとる事が大切であります。

喉頭の病氣

◇急性喉頭加答兒

急性鼻加答兒と同様鼻風邪、塵埃や毒瓦斯を呼吸した場合、皮膚が冷却した場合等に原因します。症状 短かくて粗い咳が出て、聲が嘎れ、咽喉部の痛みが、發聲時に激しく起ります。

手當法 なるべく聲を出さぬ様、濕布、うがひをして、飲酒、喫煙等を禁じます。含漱には、重曹、五・〇食鹽一・五、メント水、五・〇に水を加へて五百瓦とします。

◇慢性喉頭加答兒

急性鼻加答兒の反覆、音聲の濫用、發聲法の誤用などに因ります。

症状 音聲が嘶嘎れ、すぐに疲れ、空咳に惱まされ、時に粘膜が破れて出血します。

手當法 なるべく聲を使はぬ様に、咳を出さぬ様な方法をとる事、頸部の温濕布等をして安靜にします。

◇喉頭結核

多くは肺結核から續發します。

症状 音聲が嘎れ、咽喉が痛みます。

手當法 重食メント水の含漱、吸入、ラヂウム手術等でありますがすべては肺結核の場合と同様の手當をします。

眼

科

眼の健康法

眼は人體の五管器中最も主なるもので外界から來る光を感じる器官であります。眼は文明の進歩とともに益々重要缺くべからざるものとなつて來ますから大切にしなければなりません。そのために、特に眼の健康法を心得ておく必要があります。

◇近視眼

近視眼は多く先天性のものでありますが又細字を見たり、光線の弱い電燈の下で長時間讀書をしたりして起る事もあります。またトラホームなどによつて起る事もあります。

手當法

早く専門醫の診察をうけて眼鏡を用ひる事が肝要であります。尙家庭で早期に治すなら

ば次の方法で試めして見るとよい。

眼を一方づゝ掌で掩つてずつと見通しの遠方をちつと眺めてゐます、すると、初めは眼が痛い様に感じますが暫らくすると少しづゝはつきりして來ます。この方法を左右の眼を交互に繰返して根よく続けますといつとはなしに眼鏡が不要になります。漁師に近眼の人がないと云ふのは、自然の生活の中で遠方凝視が行はれてるからであります。

◇遠視眼

近視の場合と反對に近いものや細いものを見るに不便で、強ひて見やうとすれば頭が痛んだり眼が疲れたりします。

手當法

凸レンズを用ひれば調節されるわけです。眼鏡をかけたなら、かけたり外したりせずにつつとかけ續けて眼科醫に見てもらふ事でありませす。

◇亂視眼

多くは角膜の異状から起ります。角膜は普通、丸い形の一部なのでありますが、如何かすると一

方の彎曲の度が強くてつぶれた様な形になる事があります。あるひは角膜に異状がなくても表面に細い凸凹が出来てゐる事があります。こんな場合は焦點が一點に纏らなかつたり、はつきり映らなかつたりするために、縦のものだけが覚えて横のものが見えなかつたり、或は物が二重に見えたりするので。これは圓柱レンズと云つて圓柱を縦に切つた様な眼鏡をかければ調節がとれます。

眼の病氣と手當法

◇結膜炎

眼球と眼瞼の間に、結膜と云ふ極めて薄い膜があつて、これは眼瞼のうらと眼球の白いところを別々に掩ふて、その奥の方はつゞいて裏になつてゐるのです。

原因 は眼に不潔な手を觸れたり、薄暗いところで仕事をしたり、睡眠不足をつづけたとき、或は熱性の病氣の後體質の弱い子供などにも、これが伴ふ事があります。

症状 結膜の中には粘液を分泌する細胞があつて絶えず適當の粘液を出して潤してゐます。この結膜に炎症を起すと、粘液の分泌が病的に多くなつて朝眼やにが出たり、眼がごろ／＼したりします。病狀が酷くなると眼脂が多くなり、結膜が赤く腫れ、眼瞼が重くてまぶしく視力がぼんやりして來ます。

手當法 原因となる事を避け、風の強い日の外出をさけ、外出のときは色眼鏡を用ひて塵と光線をさけます。軽いものでしたら、硼酸水で洗ひ、5%の明礬水を點眼します。痛みの激しい時は、温器法を施す方がよろしい。刺戟の強い食物は避けねばなりません。

◇膿漏性結膜炎

原因 は、淋病菌が眼に入るために起るもので、不潔な手や、手拭、ハンカチ等を痲毒性の分泌物ある人は特に注意すべきであります。

初生児の膿漏眼は妊婦に淋毒があるとき、分娩時に菌が、嬰兒の眼に入り、生後二三日のうちに起ることが多いのです。

症状 非常に激しい炎症を起して、眼瞼が腫れ、眼球は紅潮し、濃い膿が多量に出ます。疼痛激しく全身發熱し、安眠が出来ません。角膜に潰瘍が出来、それがどん／＼深部に侵入し、遂には失明する事もあります。

手當法 一刻も早く専門醫を訪ふて、適當の手當を受ける事を怠つてはなりません。家庭の手當としては、一方の眼だけであつたら他に傳染せぬ様、取敢ず健康な方へ繻帶をして痛みのある方へは氷囊、あるひは冷濕布を施します。

◇トラホーム

これは傳染力が非常に強く、學校、工場などの様に集團的のところに多く見受けれます。主に塵埃の多い不潔な空氣のところに出來ます。

症状 これは自覺症狀が少いたため、病ひが知らない中に進んでゐる事があります。眼瞼を引返

してみると粘膜が充血して、ぶつ／＼が出来てゐます。

手當法 輕いうちに専門醫にゆけば割合に早くなほります。少し重くするとなか／＼経過が長く遂には根負けがてし途中で放つてしまふ人が多いのです。これは失明の原因にもなりますから出來るだけ早く治さねばなりません。尙感染の豫防として手拭ひ洗面器、夜具等、嚴重に區別して置かねばなりません。

◇そこひ

これは一口に云へば眼球の内側にある病氣で、非常に澤山ある病氣の總稱であります。外から見では大して變りもないが何れも眼がよく見えなもので種類によつて治るものもあれば治らぬものもあります。

◇白内障

と云ふのは主に遺傳的の素質から來ることが多く、水晶體がどん／＼濁つて見えなくなつて來るのです。これは一定の時期まで見えなくなつたところで、手術によつて水晶體を取出してしまひ、

凸レンズの眼鏡を用ひれば再び見えるやうになります。但し、この手術は、早ければよいと云ふわけではなく、時期が大切ですから信頼の出来る専門醫を選ぶことが大切です。

◇緑内障

瞳孔が開いて大きくなり、眼球は硬くなつて、段々細いものが見えなくなります。眼は充血して痛み、同時に頭痛がしたり、眉の邊が痛んだり、或は嘔氣があつたりします。この病氣は、白内障と異ひ、見つけ次第、一刻も早く、手術した方がよいです。

◇黒内障

緑内障がだん／＼進んで来ると外見は少しも變らないでも、視神經が萎縮して、視力が少しもなくなり、失明と同様になります。

◇角膜軟化症

原因は幼兒の營養不良から来るもので、殊に母乳のない場合、重症の消化不良の場合に起ります。また食物は充分でも、子供が非常に重い病氣―肺炎とか百日咳とか腦膜炎とかのために、全身の榮

養が悪くなつて罹る事もあります。

症状 別に痛みを伴はぬのが普通です、よく氣をつけて見ると白眼に異様な光澤が現れ病がだん／＼進むと、黒目一面に薄い曇りが出来ます。かうなると視力が衰へてぼんやりして来ますが、子供はそれを訴へる事をしませんから、重症の病兒や、消化不良の場合、穀分營養障害に陥つてゐる子供は視力が衰へないかどうかを注意せねばなりません。

手當法 早く發見すれば榮養によつて救ふ事が出来ます。米の粉だけで育て、かなり視力の衰へた子供が牛乳や肝油などによつて數日のうちに視力が回復し、危く盲目から免れたと云ふ話もあります。

◇夜盲

(とりめ) 前述と同様、營養不足から起るので、産婦の分娩前後、授乳中の婦人、病後、或は戦時

の兵士などによく起るものです。症状 大抵兩眼とも胃されます。日中の明るいうちは普通の眼と變らないで日光がうすれてゆく

とよもに、段々見えなくなり、夕方は一寸先も見えないまるで盲人の様になります。

手當法 榮養を充分に攝り、日光の直射を避けるなど、それ／＼原因を除けば、すぐ回復するものです。肝油やバター、牛乳などの常用が大切であります。

◇眼ぼし

水疱性結膜炎、或は角膜炎とも云ひます。不潔な空氣の刺戟、あるひは慢性の結膜炎などが誘因となりませんが、主に榮養の衰へてゐるときに起るものであります。

症状 眼が充血し、殊に黒目の周圍が赤くなつて星が出来ます。明るいとこを見つめてゐると涙がぼろ／＼こぼれ、殊に薪を炊す煙などが眼に入ると、到底眼を開いてゐられない様に泌みるものです。

手當法 五十倍の硼酸水で温罨法をし、なるべく眼を使はない様にしてゐればよいのですが、根本の榮養をよくする事が第一で榮養が衰へてゐる中は少し休めてゐれば治つても、使へばまた星が出て來ます。

◇角膜損傷 (つき眼)

爪の先や木の枝などの様な尖つたものに突つて眼球に思はぬ怪我をする事があります。軽いものは、僅かに上皮が剥れて、充血し、涙が出て、羞明しい位で済むこともありすが、重いものは紅彩や、水晶體までも損する事があります。また傷が小さくても突つたものに不潔なものでもあれば、そのために化膿して失明する様な事もありますから、早く醫師から應急の手當をして貰ふ必要があります。

◇ものもらひ

麥粒腫と云つて、瞼のふちが化膿して腫れるものです。不潔な手を觸れたりして睫毛の根本から細菌が入つて化膿するのです。可成り疼痛がありますが觸らずにそのまま放つておけば、一週間ばかりの中に治つて終ふものです。硼酸水で洗ふのも結構ですがなるべく手を觸れない方が安全です。化膿しないうちに治す方法としては、たえず冷しつぷすることです。

産 婦 人 科

婦 人 衛 生

女子の年齢が十四五歳に達しますと、肉體的、精神的に大きな變化を來します。この時季には、肉體のうちの四肢、生殖器等が著しく發達して、やがては月經と云ふ正規的な作用が行はれます。月經とは、周期的子宮出血を云ふのであつて、月經の來潮日、即ち女性の生殖器の成熟した事を示すものであります。

初經の年齢は、境遇や體質、氣候などによつて違ひますが、十三歳から十八歳の間に始まるのが普通であります。日本人の初潮の平均は、十四年八月とされて居ります。

月經の期間は、三日から一週間位で長かつたり、短か、つたりするのは、異状のある場合であり

ます。月經と月經との間はほと一定しては居りますが、必ず一ヶ月に一回とは限りません。

二十八日目に來潮するのを二十八日型、三十日目に來潮するのを三十日型と云つて體質によつて違ひますから、日數に大した差のない限り、心配はありません。

尙、二十八日型とか、三十日型とか云ふのは月經の第一日から、次の月の月經の初まる前日まで數へたもので従つて、二十八日型の人は、毎日二三日づゝ早くなり、三十五日型の人は、三四日づゝおくれで行くわけでありませぬ。

初潮當時の月經不順は、病的のものではありませんから心配はありません。

◇月經時の衛生

月經は生理的のもので病的のものでありませんから、特別の處置はありませんが、月經時は生殖器が充血しますから下腹に幾分重苦しい感じがあり、或は腰や足が多少引つられる様なこともあり、その他軽い頭痛や、睡氣を催すことがあります。

第一に身體及び精神の安靜をとる事。

第二に局部の清潔を保つこと等であります。月経困難の烈しい婦人、月経血多量の婦人で就寝のやむを得ない事もあります。一般には日常の仕事には差支へありません。

しかし、多少病的變化がありますから過度の運動や、烈しい労働は止めるべきであります。山登り、旅行、海水浴などはつゝしむべきであります。強い刺戟を避ける意味で小説、観劇等は慎しむたいものです。

月経時の手當としては、丁字帯、ネル製のものがよく、ゴム製のものは冷えますから感心しませぬ。あまり締めつけるものは非衛生です。また局所につめ物をする人もありますがこれは危険です。月経時は、粘膜が充血してゐますから、殊に創もつき易く、また細菌も侵入し易いことを忘れてはいけません。外陰部に清潔な脱脂綿とガーゼを當てその上に月経帯をかけるのが安全です。これを一日數回とりかへる必要があります。そしてこのときの入浴は危険ですから、一日二三回温湯で外陰部を拭ふやうにいたします。

但し腔内の洗滌はいけません。そして月経時の性交は、精神上からも肉體上からも絶対に慎しま

ねばなりません。

婦人の疾患とその手當法

◇帯 下

こしけは健康な婦人に於ても常に、子宮、頸管、腔などから分泌してゐます。それは極めて少量で色も無色透明であります。こしけの量が多く、色がついてゐて臭氣のある場合は病的なものであると見なければなりません。

痲毒性の疾病のある時は、大した苦痛はなくても、黄色いこしけが多量に降りるのが特徴であります。これは大抵、結婚した婦人で男子の痲疾に感染して起る事が多いのであります。なか／＼治り難い病氣でありますからなるべく早く醫師の治療を仰がねばなりません。

手當法 家庭に於ける手當としては、局部を清潔にするのが第一です。毎日入浴し、時々微温湯に浸したガーゼで局部を拭ふ事を怠らぬ様、就床前に腔を洗滌し、腔球を押し入して寝につくのが有

効であります。

◇子宮内膜炎

内膜とは子宮の内側にある粘膜のことで、その粘膜の炎症を起した場合に内膜炎と云ひます。これには急性と慢性とあつて、急性は侵入した細菌の勢が強く、體の抵抗力がそれに打勝つ事が出来なため急に重い病氣になる場合で、慢性は、急性の病氣が一先づ治つても根本的でないために慢性になる事もあり、初めから身體の抵抗力が弱くて、流石の病菌も猛威をふるふ事が、出来ず徐々に進行してゐる場合で、急性の場合よりも治り難いものです。

急性内膜炎は急に發熱して下腹部が非常に痛み、膿のやうな帯下が降り、時には血の混じるときもあります。

原因 淋疾の傳染、月經中の不攝生、産後または流産後等にあります。

手當法 搔爬さへすればすぐ治るやうにいはれてゐますが、原因に依つては何度手術しても治らない事がありますから、専門醫の診察を受けて原因をたしかめた上で手當する事が肝要であります。

◇子宮後屈症

そのうちでも最も多いもので、後屈にはたゞ後に傾いてゐる程度のもので容易に整復し得るものと、癒着と云つても子宮が後に傾いて、骨盤組織や、直腸壁等に着いしまつたものであります。先天性のものは子宮の發育不全が因で、多くは不妊の原因となります。

症状 下腹部や腰などが引吊れる様に痛み、殊に月經時はこれが激しく起ります。

手當法 一時的には「ベツサリウム」を挿入する事もありますが根本的には治りません。癒着してゐるときは手術をして位置を矯正するのが最も完全な方法であります。

◇喇叭管炎

子宮の兩側に一本づゝあつて、卵巢から出た卵はこゝで、精子と一緒になる大切な役目をするところですが、病氣は、主に淋毒性の内膜炎から起る事が多く、症状は人によつて種々達ひます。月經不順や、帯下を伴ひ、下腹部が痛みます、多くは不妊の原因となつてゐます。根本的に治すには手術が最もよい方法であります。

◇頸管カタル

頸管は、子宮の内口の外口との間の狭いところで、原因も症状も内膜炎と同様であとます。慢性になると粘ばつた帯下が可成り多く降ります。

◇腫瘍

慢性頸管加答兒の場合に必ず起します。帯下の中に少量の出血を見る事もあります。手當法 五十倍の食鹽水、或は硼酸水で、腫の洗滌をしその後へ「デルマトール」あるひは「アドソルビン」を挿入しておけばよく、近頃は牛乳で洗滌するのもよいとされてゐます。

婦人病の豫防法

◇處女時代の衛生

- 一、腰部を冷やさぬやう、温き日も注意すること。
- 二、月經中は、殊に衛生を重んじその手當を完全にすること。

- 三、局部は常に清潔にしておくこと。
- 四、不自然な性的悪癖は絶対に慎む事。
- 五、貧血の人は、どこか異常があるものと考へて躊躇せず婦人科醫の診察をうくべきこと。

◇結婚後の衛生

- 一、良人に痲疾や、微毒などのある時は、交媾を避け、早く治療するやうにすゝめること、もし自分の中に異常を見出した場合は、共々治療すること。
- 二、妊娠中の攝生を固く守り、安産を心掛くべきこと。
- 三、分娩後の手當は完全にして、充分の休養をとり、たとへ健康に復しても當分は無理な働きをせぬこと。

妊婦の衛生と心得

◇妊娠の徴候

第一に月経が閉止いたします。但し月経が少量あつても妊娠してゐる場合があります。皮膚の色に、呼吸に消化器に乳房に種々變化が現れますから素人でもよく判りますが、他の婦人病にも同様な徴候をもつてゐるものがありますから、往々にして診断を誤る様な事がありますから、先づこの徴候に氣づいたら早速専門醫の診察を乞はねばなりません。

妊娠十ヶ月の心得

◇第一ヶ月

之は月経閉止後。二十八日頃までとあつて、胎芽は身長約三分、體重五分五厘、頭部と尾部が接觸するほど彎曲して居ります。参考のために最終月経の日を記入しておきます。

養生法 性に生活状態を變へる必要はありませんが、あまり無理をしない様に適度の運動をなし、食物も仕事も平常通り續けてゐればよいのであります。唯この時よりは一層、精神の安靜に努めなければなりません。

◇第二ヶ月

胎兒は發育して身長二寸、内外で、卵は卵卵大になり、尾がなくなつて人間の形になつて來ます。子宮の大きさは鷲鳥の卵大になります。この頃から悪阻がはじまり、悪心や嘔吐、嗜好物の變化を來します。乳房がふくらみ、乳首がやゝ黒味を帯びて來ます。

養生法 食物はなるべく消化のよいものを選び、胎兒の發育に必要な營養を充分にとらねばなりません。芥子、唐芥子、わさび、アルコール等の刺激物は一切禁じます。衣服は清潔にして緩やかなものを用ひます。高いところへ手を伸ばしたり、重い物を抱へたりすることは流産の原因になりますから避けねばなりません。この月は汽車旅行を見合すべきです。

◇第三ヶ月

胎兒は身長二寸七分、子宮の大きさは手拳大になります。乳房は多少張り氣味になり、悪阻は益々劇しくなります。その人によつては苦痛のない人もあります。この月は流産し易いから、性生活にも注意を要します。悪阻があまりに酷く、病的である場合は、直ちに醫師に見せなければなりません。

ん。
 攝生法 便通に注意して、毎朝食前に冷水を飲むか、就寝前に果物を食べるかして、毎日時間をきめて上廁すること、醫師の相談なしに薬を用ひてはなりません。

◇ 第四ヶ月

胎児の身長四寸八分、體重三十四匁、胎動が初まります。胎児は全身に生毛が生えはじめます、子宮の大きさは小児の頭位もあります。外部から見ても、下腹部の大きさが分ります。この日から悪阻は大抵止みます。

養生法 分娩時に最も大切な助産婦を選ばねばなりません。初妊婦ならば、なるべく早いうちにしなければなりません。経験と技能に富んだ親切な人である事を第一とします。

精神の過勞をさけて、縁日、寄席、劇場、映畫館等の人込みの中にゆかぬ事、讀書などにも刺戟なものとふれぬことであります。

◇ 第五ヶ月

身丈八寸、胎児の頭髮が生え、下腹部に耳をあてると胎児の心臓の音をきく事が出来ます。乳房は益々張つて来て、縮ると薄い乳汁が出て來ます。この月から流産の恐れはなくなります。この月には日を選んで腹帯をいたします。普通、戌の日にいたします。これは腹部の冷えを防ぎ、胎児の位置を正しく保ち、母體の動作を自由にするために必要であります。帯は、晒木綿を七尺五寸三分にとり、最初は巾を二つ折にして巻きます。

巻き方は、一方の端を左腰のところへ、當て左手で押へて、下腹部をぐるりと包むやうに、一卷します。一卷したら下腹のところを繻帯を巻く様に、下から上へ向けて、一つ折返しては巻いてゆき、端は一寸巻目へ挟み込んでおきますと、すり落ちる心配もなく具合よくお腹をつまめます。尙腹帯は、冬は本ネルやメリンスなどを用ひるのもよいです。

手當法 月が重るにつれて分泌物が多くなりますから、毎日入浴して局部を清潔にします。但し入浴は十五分か二十分位で長湯はよくありません。乳房を時々アルコールにて拭ひ、清潔にし、皮膚を強くしなければなりません。乳首の形の悪い人は、授乳に都合のよい様に、時々軽くもむ必要

があります。

◇第六ヶ月

胎児の身長九寸六分、體重百七十匁内外、皮膚は分泌物でおぼはれ、皮下の脂肪組織が出来始めます。眼瞼は開き、頭髮と眉との區別が明らかになり、子宮の大きさは、母の臍部の高さになります。この月に生れた子は、呼吸はしますが育ちません。

胎児の活動は益々激しくなつて來ます。

攝生法

妊娠中は、下脚に浮腫の來る事がありますが、これは胎児の發育とともに四管が壓迫されて血液の循環が悪くなりますため、妊婦には有り勝な事ではありますが、若しも下脚以外に浮腫のある様な場合は一應醫師の診察をうけねばなりません。

◇第七ヶ月

胎児の身長、一尺一寸二分、體重二百七十匁、皮下脂肪不充分のため、皺が多い、頭髮が五センチ位のびてゐます。子宮は、臍より一寸位高いところまで上ります。この月に生れると弱い聲で泣

き、乳も嘔みますが育つ事は出来ません。胎児は移動し易く、腹部は益々大きく目立つて來ます。

攝生法

胎児の位置が正しいか如何か一應醫師に見て頂く必要があります。五ヶ月頃より胎児が肥つて來ますから、妊婦は充分に榮養分をとらねばなりません。七ヶ月以上になればいつ何時早産しないとも限りませんから、この月に入つたら分娩具の用意をしておかねばなりません。

◇第八ヶ月

身長一尺二寸八分、體重四百九匁、子宮底は臍とみぞおちの中央まで來ます。この月に生れた子は、哺育の方法さへよければ育ちます。腹部は著しく膨張します。この月は子宮の大きさを十ヶ月と同じであるため、十ヶ月に間違へられ易いから、最終月経日をはつきりしておく必要があります。

攝生法

物につまづいてころんだりせぬ様注意を要します。精神状態も變化し易く、神経過敏、憂うつ、不眠などにかゝり易いときです。また早産のおそれもありますから、乗車や旅行は止めた方がよろしいと思ひます。

萬一早産したならば保温と榮養に充分に注意を拂ひ、特別の努方をせねばなりません。

◇第九ヶ月

身長一尺四寸、體重五百匁以上全身やゝ肥つて來ます。子宮の高さが、妊娠中最高の位置を占め、心窩部の骨の下までに達してゐます。腹部の皮膚は最強度に、緊張し、呼吸困難となり、肩で息をする様になります。分泌物が激しくなり、時々陣痛の様な痛みを覚える事があります。下脚のむくみが液しくなり、靜脈痛と云ふて脚の血管が膨張し、液しく痛む事があります。

攝生法 この月になると少しの刺戟にも分娩し易くなりますからなるべく遠方には出向かぬやう歩行にも注意して倒れたり腹部を打つたりせぬ様にしなければなりません。

交媾は絶対に慎しみ、分娩の用意を整へ、醫者が産婆の診察をうけて、胎兒の位置や、母體の異常の有無を確かめ、分娩の豫定日を知つておく事が必要であります。

そして分娩の始まる徴候にはよく注意して殊に出血に注意をします尙分娩時や産後の疾病を起さぬため豫め乳房や、外陰部を清潔にしておきます。

◇第十ヶ月

胎教に就て

◇胎教の必要

身長一尺六寸、體重七百五十匁より、八百匁、頭髮は一寸位に伸び皮膚は淡紅色で、わがありません。子宮は少し下つて來て八ヶ月の時と同じ場所にあります。これは胎兒の頭が次第に骨盤に入つて來ますからやがては分娩の始まると云ふ徴候なのです。

攝生法 生れて來る子供の衣類お襦袢分娩用具などを整へ、髪を洗つて心靜かに、分娩の日を待ちます。

昔から「病ひは氣から起る」とか「健全な精神は、健全な身體に宿る」など諺にあります様に人間の身體と靈とは極めて密接な關係にあるもので御座います。でありますから身體が健康であると共にこゝろもまた明るく朗らかでなければなりません。

しかし人間は一度健康を害しますと、精神も不快でいつもくよくよとし、愚痴つぽくなり、考へ

も鈍つてまゐります。これは身體の不健康が精神に影響した場合でありませんが、常にこゝろが愉快であれば身も軽く、活潑に動作する事が出来ますから、食欲もすゝみ、自然血食も美しく健康である事が出来ます。

私達が眞に健康をねがふならば、どうしても精神の攝生を共に守らなければなりません、精神の作用のうちでも人間の感情が最も強く影響するものであります。殊に女子のそれに於ては男子よりも一層、酷いのであります。また女子のうちでも妊婦は、一層、感情が激しくそれが肉體に影響し易いのであります。何故ならば胎兒の成長するために要する成分のすべては母體の血液から得るのであつて、母の精力は妊娠期間中、胎兒の方へ、大部分吸収せられるわけでありまして。従つて母胎の抵抗力は弱くなり、精神も平常より薄弱になりその上にお腹の子供が成長するにつれて、それだけ餘計に身體の影響をうけ、引いては心は平生よりもいら／＼して、常ならば平氣でゐられる様な事にまでも心勞し、身體をいためる様になるのであります。

胎兒は、母體の一部分ですから、母の身體に變動があれば、胎兒がその影響をうけるのは當然の

事で、胎兒の發育は極めて迅速ですから、この胎生期間に於て、小さな影響をうけても後になつてはそれが大きな結果として残されるのであります。之は、たゞ肉體の出来具合のみならず、神経系統も同一と見なければなりません。

大人の場合のみでなく、胎兒の場合に於ても、肉體と精神とは兩立すべきものであつてひとり神経系統を切り離して考へられぬのであります。かう云ふわけですから感じ易い妊婦の精神行動は直ちにその身體、殊に生殖器に強く影響し、引いては子宮内の胎兒の肉體に影響を及ぼし、尙胎兒の精神上的の發育にも大なる關係を持つに至るのであります。

こゝに於て、胎教は、妊婦がよく精神の攝生を守り、その結果妊婦自身に好影響を與へ、それを胎兒にまで及ぼして優良な子女を得やうとするにありまして、ですから優良な子女を得やうとするならば、常に高い理想をもつて、平和に愉快に、健全な生活を送るやうに努めねばなりません。

◇胎教についての妊婦の心得

一、平和な明い心を持つ事 不安や心配は妊婦の最も毒なものであります。これは妊婦の發育を損じひいては、胎兒の發育を害しますから、出来るだけ明るい晴やかな生活を営まねばなりません。常に平和を主として、怒りねたみ等の感情を制し、波瀾を起さぬやうにせねばなりません。

二、精神の純潔なるべき事 自分の體内の胎兒は、自分にすべての運命を托してゐるのだ、愛兒の良くなるも悪くなるも自分の心掛け一つだと思へば、常に高尚純潔な思想を持し、始終神に接してゐる様な氣持で、完全に貴き使命を果す様勉めねばなりません。

三、讀書その他の娛樂に就て 讀書は高尚なものであれば、良き指導者であり、慰安者でありますから、如何なる場合にも忽せにしてはなりません。低級で刺戟の強いものは絶対に手にとらぬ様にします。觀劇などの様な集團の場所は避け、靜かに上品な音楽をきき、高尚な美術に眼をそまぎ、自然に親しんで花卉を愛し、これを培ひ、緑深い木蔭に逍遙すると云ふ様な生活が最も理想的であります。

四、言語舉動は慎しむこと 上品な言葉づかひ、上品な行動は、自然にその内的生活を淨化する

ものであります。

妊産婦の疾病と其の手當法

◇病的な惡阻

病的のつはりは症狀が非常に激しく、何を食べても嘔いてしまひ牛乳や果汁のやうな流動物さへ落付せず甚だしいものは、食長を攝ると攝らないとに關らず嘔きつゞけて、遂には黄色い液や、血まで嘔くやうになります。

手當法としては

- 1、靜なる別室に安臥させ看護人の外はあまり近づかぬやにして、神經の興奮を避ける事。
- 2、便通をよくするため、時々浣腸をすること。
- 3、食物は消化し易い流動物を用ひ、數回に分けて少しづつ決して無理をして食べさせやうとはせぬ事。

4、胃の部分に氷嚢を當てる事。

牛乳や重湯、番茶などを冷めたくして與へますと、大抵嘔氣の強いときでも、割合によく治まるものです。また患者の好むものを與へれば、非常な不消化物でない限り、少量づゝ與へて差支へありません。却てそのために、食欲の出る事もあります。

以上の手當をしてもまだ嘔吐のやまぬときは、一時も早く、産科醫の診察をうけねばなりません。醫師はその症状に應じて、注射、腸の洗滌、服藥、その他いろいろの手當を施し、大抵はそれで恢復しますが、どうしても治らぬときは人工流産させます。

◇病的の浮腫

子宮が段々大きくなると、附近の血管を壓迫し、血液の循環を妨げるため、浮腫を起します。これも普通は、たゞ下肢にだけ起るもので軽度のは心配はありませんが病的のは、だん／＼上の方にまで及び、外陰部から腹部尙進んで顔まで浮腫みます。浮腫のある部分の皮膚が緊張して、白色の光澤を帯び、指で壓すと凹むやうなのは、多く病的のもので腎臟病、心臟病、脚氣などに原因し

殊に腎臟病から來たものは、妊娠の末期に恐ろしい子癇を起す事がありますから注意しなければなりません。

手當法 一、下肢にだけ浮腫があつて、而も何の苦痛もない時は、その進行に注意すること、

二、長時間の起立を避け、足に繃帯をするか、靴下を用ひる事、就床時、足の方を高くして寝ること。

三、劇くなつた場合には、安静にして、一日の尿量や回数に注意をすること。

四、診察を受け、尿の検査をしてもらふこと。

◇唾液過多病

二ヶ月頃から四ヶ月位の頃に非常に唾が出て、そのために、食欲が衰へることがあります。

手當法 口内を清潔にして、食鹽水、硼酸水、過酸化水素水などで含嗽し、それでも治らぬ場合には、専門醫の診察を受けて、適宜の處置と薬とで衰弱を防がねばなりません。

◇腎臟病

妊娠の後半期に起ることが多く、お産が済むと、自然に治るものです。始めは下肢に軽い浮腫が全身に擴がつて尿の量が減り、尿中に蛋白質が現れて來ます。更に悪くなると、頭痛、悪心、嘔吐を催し、視力の障碍を起して、遂には恐ろしい、子癇となつて痙攣を起し、生命を危くすることがあります。

幸ひ、子癇は起きないまでも、出産時にいきむ力が弱くなつて胎児が、自然出ないために、器械を用ひたり、また子宮の收縮の悪いために、産後大出血を起したりし易いものです。もし浮腫の下肢だけでなく、顔までも浮腫むやうなときは、すぐに安静にし、鹽分の多い飲食物を制限し、量菜や果物を多く攝り一切の刺戟物を避けねばなりません。

それでも尙、病勢が進むとき、醫者に検尿を頼み、悪心、嘔吐、視力障碍などが來たならば、直に入院して適當の處置を取ることが大切です。尙、一方腎臓病に罹つた事のある人は、出来るだけ早く、醫者の診察を受けなければなりません。

◇腎 孟 炎

突然に、悪感、戦慄が來て、三十九度から四十度の高熱を發し、腎臓部に軽い痛みを覺えます。絶對安静を安り、痛み、或は壓重の感のある方を上にして側臥し、その部分に、冷濕布かあるひは暖濕布をします。食物は多く飲料をとる事。

◇脚 氣

これは妊婦の最も罹り易い病氣です。浮腫、知覺の異常、下肢の倦怠、歩行、困難などの症狀を來し、妊娠中絶を起したり、遂には生命をも失ふやうな事があります。

脚氣の症候があつたり、まづ安静にして便通をよくし、新しい野菜、果實などを多く食べ、半搗米、麥飯などを攝る方がよいのです。この病氣は食物で豫防するのが最もよくまた。素人にできる第一の手當です、それでも尙、浮腫や下肢の倦怠、麻痺などがあるやうでしたら早く醫師の手當を受けなくてはいけません。

流産の豫防と手當法

流産と早産 妊娠は、二百八十日、つまり四十週経つて分娩するものですが、それが二十八週、即ち七ヶ月以前に起つた場合は流産二十九週後に起るものを早産と云つてゐます。流産の時は、胎児がまだ充分成育してゐませんから生れるとすぐ死亡しますが、早産の場合は、適当な哺育法さへ施せば、育つことが出来ます。

◇流産の原因

- 一、胎児の死亡した時。
- 二、卵に異常のある時、(葡萄状鬼胎のやうに。)
- 三、全身的の疾病ある場合。(梅毒、熱病、腎臓病、心臓病、結核)
- 四、生殖器に異常のあるとき、(内膜炎、子宮後屈、その他、子宮やその附屬器の腫張)。
- 五、妊娠が不攝生のとき、(長途の旅行、過度の労働、腹部に力を入れたり、重いものを持ち上げたり、その他交媾過度など)
- 六、外部よりの刺戟(腹部を打つ、顛倒、衝突、墜落等)

七、常習性流産(生殖器の障害、その他原因不明のものですが、素人が常習性流産と思つてゐるものに、大部分は梅毒のためのことがあります。一度血液検査をうける事。

流産の症状 急に下腹部や腰に、お産のときの陣痛のやうな劇しい痛みを覚え、間もなく出血します。

また反対に腹痛よりも出血が早く起る事もあり、或は出血と云ふほどでもない。血の混つた帯下があるとか下腹に壓重の感があつて、その度に流産の起つて来る事もあります。

この様な前駆症状のあつた時、絶対安静を守つて適当な處置をとれば未然に取止める事も出来ます。

一二ヶ月の流産は、卵が凝血に固まれたまゝで排出されるので當人も流産とは氣づかずをくれてゐた月経だと思つて過してしまふ事もあります。

流産が一度全部出てしまへば、出血も間もなく止るものですが、もしその一部が子宮内に残つてゐるときは、いつまでも後から出血が續き、この出血は時には忌はしい結果をもたらす事があります。

す。また一部分残つてゐて出血は幸に止つても、これに病菌の繁殖する事もありますから、早く醫師の手當を受けなくてはなりません。

手當法 流産は、月經と間違へる位に手軽に済む事もありますけれどもまた命にかゝわるやうな場合もあります。また流産後の手當を誤ると、内膜炎や喇叭管炎を起すことがありますから、結婚した婦人が一ヶ月でも月經が止り、その後に出血を見たときは、すぐに醫師に相談した方が安全です。殊に、急に腹痛を覚えて出血を起したときは、尙もつて流産と思はねばなりません。

流産の徴候があつたらば絶対に安静を守り、淡白な食物を攝り、なるべく興奮をさけて醫師の診察を待ちます。出血のはげしい時は、一時も早く、醫師を迎へ、その間も下腹部に氷を當て、貧血をふせぐために身體を温め、少量の葡萄酒をのませます。出血とよみに出た塊は、取つておいて必ず醫師に見せる事。流産後は一體に婦人病に罹り易いから、充分に注意して、普通の出産同様大切にせねばなりません。

異常妊娠についての心得

◇骨盤狭窄

胎児が生れ出るには、必ず一度は、骨盤の中を通らなくてはなりません。

骨盤は、硬い骨で出来てゐるのですから、此の中を胎児が通過する事は、なか／＼容易な事ではありません。それでも普通の骨盤であれば無事に通れるのが自然です。

ところが生れつき骨盤の狭い人、或は關節殊に、股關節の病氣があると骨盤に異状の起るものです。概して身體の小さい人や細い人には骨盤の狭い事があります。

骨盤の大きさ、専門醫が外から一定の器械を當てて測れば判るので、これは一度測つておけば、お産の度に變るものではありませんから、初妊のときには是非一度測つておかねばなりません。

骨盤の狭いにも程度があつて胎児の頭さへ、それほど大きくなければ、多少時間はかゝつても無事に産めるもので、或はどんな、小さい赤ちゃんでも全然出せない程度のももあります。

前者の方は、骨盤と胎児の大きさを測り比べて、この位なら大丈夫生めると云ふところで、分娩豫定日より前に、人工的に陣痛を起さして早産させるのです。

信用ある醫師に委せれば、決して心配はありません。

後者の方は、いくら小さい胎児でも、到底通らないのですから、子供はそのまま、臨月まで充分に發育させておき、適當の時を見計つて、腹部を切開して出せば、大多数は無事に子寶を得られます。

◇ 双胎児

お腹の中に、子供が二人あるか、一人かといふことは、専門醫や産婆でも、往々判断に苦しむことがあります。大體素人に判る判断法を申しますと、

一、腹部が異常に大きいとき（但し大きいから必ず双胎児とはいへません。羊水の非常に多いときも、お腹は大きいものです）

二、膨れたお腹の真中に、溝が出来てゐるとき、

- 三、胎動を、同時に諸所で感じるとき、
 - 四、遺傳的の關係があるとき、
- 以上のやうな特別の状態を認めたらば一應産科醫の診察をうけ、双胎児であることを知つたときは、普通の妊娠よりも、一層攝生を守らねばなりません。出産の時も豫め醫師を迎へる用意だけはしておきたいものであります。

◇ 逆 兒

胎児は、頭を下にしてゐるのが、普通ですが稀には、臀位と云つてお臀を下にしてゐるものや、横位と云つて横になつてゐる（これは極めて稀に）こともあります。

正常位置ですと、お産のとき大變都合がよいのですが、頭が先に出たり、足が出たりしますと、お産がなかなか面倒になつて來ます。時には、折角の子供を殺してしまふ事さへあります。

妊娠して七ヶ月頃から、時々醫師なり、産婆なりに診て貰ひ、位置を確めて、もし逆兒の場合には正常の位置に直しておくこと、いづれにしてもあらかじめ位置を診て頂いておく事は、安産を願

ふ上には是非必要なことです。

◇子宮外妊娠

妊娠は、卵と精虫とが喇叭管内で會合して、子宮内に出て来て、内膜に附着し、こゝで發育するのです。ところが喇叭管の通路が妨げられてゐるときは、妊娠は、子宮に出られず、異常の場所に附着して子宮外妊娠を起します。これには主に喇叭管妊娠が多く、(稀に、腹腔妊娠、卵巣妊娠がある)初めは普通妊娠と同様に、悪心、嘔吐、食慾不振などを訴へますが、二三ヶ月位に、流産、或は喇叭管破裂を起すものです。流産のときは、陣痛の様な腹痛があつて、不規則な出血を見ますが破裂を起しますと、突然に劇しい痛みが起つて氣を失つて倒れ、多量の内出血のため、顔色は、蒼白となり、手足は冷めたく、冷汗を流し、ときには悪心、嘔吐もあり、脈搏が弱くなります。この様な症狀を起したときは、非常に危険ですから、とりあえず下腹部の痛みのある側に氷嚢をあて、冷やし、一方急いで醫師を招かねばなりません。

◇胎兒死亡

胎兒が母の胎内で死亡するときは、或日數を経過しますと、普通産のやうに陣痛を起して流産または、早産するものです。

胎兒死亡の症狀は

- 一、胎動がなくなる。
- 二、腹部の膨れるのが止るか或は却つて小さくなり、且つ硬くなつて来る。
- 三、乳房が弛緩し、分泌が中止する。
- 四、とき／＼悪寒があつたり、食慾減退、全身倦怠の感があり、出血、或は、汚褐色の下りものがある。

以上のうちいづれかに氣づいた時は早く、醫師の診察を受けられたいものです。

胎兒死亡の原因は、母胎が腸チフスなどの様な急性傳染病、或は、肺結核、梅毒などのやうな慢性病に胃されてゐる場合、腎臓病や心臓病に罹つてゐるときなどでありませぬ。

分娩時の心得

◇分娩豫定日

分娩の豫定日を算出する方には種々ありますが、最近一般に用ひられる方法は最後に月経のあつた月から逆に三ヶ月を數へて、月経のあつた第一日に七日を加へたものであります。

例へば最後の月経が十月の五日から十一日までであつたとすれば、十月から逆に三月つまり、九、八、七と數へ、月経の最後の日、五日に七日を加へた十二日で、つまり翌年の七月の十二日が豫定日と云ふわけです。

◇分娩の準備

分娩の近づくために起る徴候には常に注意する事。分娩用具と赤兒の必要品を一ヶ所にまとめておくこと、産婆には、いつでも來て貰へるやう、豫め打合せをしておく事。お産についての覺悟を充分にかためておく事、妊娠中に、少しでも異狀があつたり、或は、分娩が多少、面倒のときはす。

ぐに産科醫を迎へるやう、家人や産婆に豫め打合せしておくこと等であります。

◇分娩用具

- 一、産時用蒲團(大中小二枚)
- 一、丁字帯(三本)
- 一、タオル(大小各二三枚)
- 一、産婦腹帯(三本)
- 一、青梅綿(二三袋)
- 一、脱脂綿(三四ポンド)
- 一、油紙(六枚つゞき三枚、九枚つゞき一枚)
- 一、晒木綿(二三反)
- 一、クレゾール(二百瓦)
- 一、アルコール(二百瓦)
- 一、莫 産(二三枚)
- 一、石 鹼(二個)
- 一、盆 (二三枚)
- 一、ガーゼ(二三反)
- 一、洗面器(三個)
- 一、護謨引布(大巾四尺)
- 一、たらひ(二個)
- 一、大形便器(一個)
- 一、蠟 燭(二三本)

- 一、金 巾 (大中四尺五寸)
- 一、蓋 茶 碗 (二三個)
- 一、檢 溫 器 (一個)
- 一、古浴衣又は敷布 (二枚)
- 一、丹前或は毛布 (二枚)
- 一、挿込便器 (一個)
- 一、オリーブ油 (五十瓦)
- 一、産褥用股引 (一組)
- 一、吸 飲 み (二三個)
- 一、一升入空壺及小壺 (一本宛)

◇産室と産床

産室はなるべく広く静かで風通しのよい室が理想的であります。床は、室の中央におきて、周圍

- 一、鹽 袋 (二つ)
- 一、半 紙 (一帖)
- 一、麻 (少々)
- 一、胞衣容器 (一個)
- 一、ゆたんぼ (二三個)
- 一、三十倍硼酸水 (一ポンド)
- 一、シツカロール (二個)
- 一、氷 囊 (二三個)
- 一、小 箱 (二二個)

から用の出来る様、蒲團は藁蒲團の方がよく、普通の蒲團でもあまり柔かすぎないのを用ひます。

◇分娩前徴の自覺

臨月になりますと、みぞおち邊まで上つて行つた子宮底がだん／＼下つて來ますから今まで胸苦しかつたのが治つて、呼吸も非常に樂になります。反對に膀胱や、直腸は益々壓迫されるので、尿意は頻繁になり、便秘勝になります。これは分娩日の近づいたしるしで、いよ／＼迫つて來ると下腹部や、腰部の邊に、い痛みを感じます。

この痛みは、不規則的なものでまた誰もが極つて覺えるものではありません、中にはこんな前徴なしに突然に陣痛の來る人もありますが、この不規則な痛みがだん／＼規則正しく、起るやうになると、胎児を包んでゐる亂膜は、一部分が子宮壁から剝がれるので薄く色のついた下物があります。これをするしなど、云ひます。

お産の済むまでの分娩を、第一期、第二期、第三期としてゐます。第一期は、子宮腔や頸管が完全に開いて、胎児が通るのに充分なだけに開大するまでを云ひ、第二期は胎児が體外へ出るまでを

云ひ、第三期とは、胎盤の娩出を終るまでを云ひます。

胎児は、卵膜と云ふ薄い囊の中で、羊水と云ふ水のいつばい入つた中に浸つてゐますが分娩が始まつていよ／＼陣痛がはじまると、この卵膜の一部が子宮から剝れて、ゴム風船のやうな形になつて子宮口に向つてふくれ出します。これを卵胞と云つて、非常に弾力があり、陣痛の繰返される度に、ぐん／＼子宮口を押し開いて胎児の出でゆく道をつけてゆくのです。

かうして漸く子宮口が完全に開いてしまひますと、卵胞は、自然に破れて羊水が洩れます。これで分娩の第一期は済んだので、この間、初産婦では七八時間から十二時間かゝります。

卵胞が破れると、いよ／＼胎児を娩出しなければなりませんから、陣痛は益々劇しくなり発作の時間が長く、間歇時間が短くなつて反復するうちに胎児の頭は一進一退して何度も繰返した後、一しきり劇しい陣痛とともに胎児は母体外に娩出されます。これで第二期が終りました。

胎児が出てから十五分か二十分の後に、子宮の収縮する力で、子宮壁を剝れた胎盤は、卵膜と一緒に排出され、これで第三期も終つて、無事にお産が終えたわけです。

分娩後の衛生

お産が済んだら、汚れた褥や、寝衣を、清潔なものにとり更へ、外陰部を消毒して、消毒したガーゼと脱脂綿とを澤山あて、丁字帯を施します。そして腹帯をさせ、周囲を静かにして安眠させます。

分娩時には腰から下を露出するために、後で悪寒を覚える事がありますから寒い時は、湯たんぽを入れてやります。

出産の後に一時體温の昇る事がありますが、一晝夜もすれば平熱に復します。あまり高い熱が出るやうであれば醫師の診察をうけねばなりません。

褥婦は一寸した精神感動から熱が昇つたり脈が多くなつたりする事がありますから先づ何よりも心身の安静をとらせ、談話などを一切禁じさせてひたすら、疲勞を恢復させるため努力しなければなりません。

◇就床の心得

普通産後の就床は、三週間と定められてゐますが、その間は勿論、寝たまゝではありません。人によつては早く起床した方がよいと云ふ説もありますが、あまり早く起きる事は、長く出血したり子宮脱出の原因となつたりしますから、就床三週間中の大體の標準を次に掲げてみます。

第一日と二日は仰臥、絶對安靜、食事、排便等一切、就床のまゝする事。

第三日目には食事と授乳時に横向になつてもよく四日目からは位置を替へてもよし。

第五日六日目からは授乳、食事、排便のときのみ座らせ、七日目からは自由にしても差更へなし

以上のやうにして経過がよかつた場合、はじめて床を離れてもかまひません。これまでの日数は

人によつて異なるが大抵は十日から一週間位のものです。

床を離れても最初のうちはたゞ便所へゆく位にしてあとはやはり。床の上に座つたり寝たりして

ゐた方が安全であります。

四週間目には入浴が出来、六週間になれば日常通り仕事をして差支へありません。

妊娠のために膨脹した子宮は、胎児を娩出し、胎盤が出た後は、臍の部分よりも下になつて丁度妊娠五ヶ月位になり、その翌日はまた少し高く、六ヶ月位になります。その後は一日々々と收縮して、十日から十二三日目には、もう外から觸れない様になります。六週間経つとやつと舊の位置と大きさに復へるのです。産後長く赤い下物が續くのは、子宮の收縮の具合が悪いのですから、一度診察を受けねばなりません。

産後初めの数日間、多量の惡露(血性の下物)が出ますから脱脂綿を數枚重ねてその上に殺菌ガーゼを重ねたものを當て、丁字帯をかけておきます。これは三時間毎に取換へてその都度、外陰部を、一%のリゾール水、あるひは、三%の硼酸水に浸した脱脂綿で丁寧に早く、上方から下方に向けて拭ふことを忘れてはなりません。下り物が少なくなつてゆくと同時に、交換の回数も少なくてゆきます。

◇乳房の手當

母乳は子供を育てる上に最も大切なものでありますから、母體に特別の病氣がない限り、自ら授

乳しなければなりません。授乳をはじめる時期は、生後二十四時間か普通とされてゐますが最近では六時間から八時間位で與へた方がよいと云はれて居ります。
授乳をはじめたらば、乳はいつでも消毒ガーゼで掩ひ、授乳前後には、必ず微温湯または二%の硼酸水で拭くやうにします。

産婦の食物

◇産後一週間の献立

		朝		
第一日	重湯(牛乳) 野菜スープ 半熟卵	重湯 スープ(肉) 牛乳	重湯 魚のつみ入れと うどの清汁	
第二日	パン粥(牛乳とパン) 煮りんど	五分粥 肉スープ	五分粥 魚の白みそ汁	

第三日	卵粥 大根のみそ汁 牛乳	七分粥 麩と小燕の清汁 ひらめのカステラ 果汁	ほうれん草ひたし 七分粥 茶碗むし ふろふき大根とりみそかけ	
第四日	普通味噌汁 豆腐味噌汁 スクランブルエッグ 牛乳	百合の甘煮 ひらめの焼身 果汁、カステラ	粥(牛乳) オムレツ 甘薯の含め煮 かき玉汁	
第五日	粥(牛乳) 小燕のみそ汁 玉子の目玉焼	粥のうしほ汁 うどと豌豆の甘煮 果汁、カステラ	粥(牛乳) 蒸魚のトマトソースかけ 野菜サラダ 肉スープ	
第六日	粥(牛乳) かんびやう味噌汁 ほうれん草のバター炒め	粥の鹽焼 小鯛の甘煮 人参の甘煮 果汁	野菜入りおじや さやえん豆の胡麻和へ 鶏肉のたき團子汁	

第七日	軟飯(牛乳) 燒海苔 ソーセイヂ入玉子おとし汁	軟飯 鯉のこ 小燕のあちやら漬 ビスケット(牛乳)	軟飯(牛乳) おとし芋の清汁 まぐろとひらめのさしみ 菜と人參の白和へ
-----	-------------------------------	------------------------------------	--

◇産婦の榮養

産婦は、病人とは異ひますが、妊娠や分娩の疲勞で衰弱してゐますし、また一方小兒に授乳しなければならぬ關係上、普通人の倍以上の榮養を攝らねばなりません。右献立に示した通り、最初は消化し易くして榮養價値のあるものからはじめて漸時、普通食に移つてゆくのであります。

分娩後に罹り易い病氣と

—(其の手當法)—

◇産褥熱

これは産後の疾病のうちで最も怖ろしい病氣で、これは多く分娩時に出來た創口から、細菌が入つたための病氣であります。陰や會陰その他に別に眼につくほどの創がなくても、子宮や頸管などの創が出來るとか、その他目には見えない様な創口からでも細菌は侵入するのです。殊に分娩後はすべての生殖器が弛緩し、しかも血管が充血して居ますから、一層細菌が繁殖し易い状態にあります。以上の様に、どこかに創のあるところへ、使用するガーゼや脱脂綿などが不潔であつた場合、或は案外子宮の收縮が悪いとき産婦の身體に抵抗力が弱いときなどは尙細菌の侵入を受け易いことになります。

症状 第一に發熱します。三十八度以上に昇るときは注意せねばなりません。但し産褥熱の場合には多く三四日目頃からだん／＼昇つて遂に四十度位になります。

發熱に伴つて悪寒と戰慄が來ます。その他尿が減り、頭痛がして口が渴き、衰弱の感を伴ふのが一般の症状です。

手當法 産後少しでも經過が怪しいと思ふ點がある時は、少しも早く、醫師を招いて充分の手當

を加へる事が大切であります。

◆生殖器の復舊障害

胎盤や卵膜の一部分が子宮の内面に残つたとき、膀胱や直腸の排泄が常に不十分のとき、授乳しないとき、子宮の位置に異状があるとき、身體が衰弱したとき、極端に早く離床するとか、或は長く就床したとき、双胎児の生れた後などは子宮の收縮が悪くいつまでも、血性の下物がある事があります。

◆乳房の疾患

乳頭の裂傷、乳房炎、乳腺炎などに罹りますと、乳に固いしこりが出来て痛みはじめ、乳部の皮膚が赤味を帯び、三十七八度の發熱をします。

手當法 授乳を止め、なるべく早く冷濕布を施して、しこりを散らすか、それでも治らぬ時は、醫師の手當を受けなくてはなりません。

膀胱カタル、尿意が近くなり、しかもいつまでも、尿の残つてるやうな感じがして少し痛み

もありません尿は濁り、少し悪臭があります。

原因は尿の排泄不十分のため起る事もあり、或は尿の出ない時、カテーテル(尿を誘ひ出すゴム管)を挿入しますがその消毒不十分のためなどです。

手當法 安静にして、腰部を冷やさぬ様にし、刺戟の多い食物をさけ、淡泊な食物、牛乳、冷水番茶、などを多量に與へます。

◆腎 孟 炎

膀胱カタルを早く治さないと細菌はどん／＼奥へ侵入して遂に腎臓を冒し悪寒、戦慄などが來て三十九度から四十度の發熱をすることがありますから、こゝを氷嚢で冷し、多量の番茶を飲んで、醫師を遣へます。

授乳中の攝生法

これはすでに、妊産婦の攝生法の項で申上げましたが、更に次に注意すべき事柄を擧げて参考に

供します。

乳汁分泌の少い場合 分泌量を多くする法

一、吸引刺戟の可良なる事

- 1、生後二十四時間頃に吸はせる事。
- 2、授乳時間を嚴重に守ること。
- 3、乳房を交代に一方だけ十五分間づゝ吸はせること。
- 4、少いからと云つて他の栄養品を足さないこと。
- 5、妊娠中から乳嘴を吸ひ易い形にしておくこと。

一、母體の營養が充分であること。

- 1、清潔を守り、食慾を可良にすること。
- 2、食物を過不足にしない様にして充分にとること。
- 3、飲料を充分に攝取すること。

4、適度の運動をすること。

一、精神療法

- 1、精神的安靜を守ること。
心配は乳汁の分泌量を減じ。乳汁の性質を悪化するものであります。
- 2、産後数日間、分泌不足するのが生理的であつて、この場合赤坊には乳汁不足しても害はないのでありますから自分の子供を養ふだけの乳汁は出るものと信じてこの場合他の栄養品を用ひぬ様にする事。

夜臥すに、衣を以て面をおほふべからず、氣をふさぎ、氣上る。夜臥すに、燈をともしずべからず。魂魄定らず。もしともさば、燈をかすかにしてかくすべし。ねぶるに口を閉づべし口をひらきてれぶれば、眞氣を失ひ、又牙齒早くおつ。

—貝原益軒—

外科

外科の病氣と其手當法

◇脱臼の手當法

脱臼とは關節の外れることを云ひます。高いところから落ちるとか轉ぶとか、顎の骨ならば酷く笑つた後などに起ります。一旦脱臼したものをそのままにしておく、關節をつなぐ筋が、伸びつきりに伸び、そのために後になつて幾度も脱臼する癖がつかますから、直ちに整復しておかねばなりません。殊に顎の脱臼に、これが多いやうであります。

すぐ近くに醫師がないときは、絶對安静を守つて患部に冷罨法を施し醫師を待つか、または骨折の場合のときは、患部を板、毛布、わらのやうなものに結びつけて、醫師のところへ運んで行きま

す。

◇捻坐の手當法

捻坐と云ふのは何かの拍子に脱臼しやうとして舊にふくした場合になります。脱臼と同様に、その部分が腫れて、疼痛があり運動に障礙を來すので足ならば勢ひ、びつこをひく事になるのです。時とすると皮下出血のために、皮膚が紫となる場合があります。

手當としては冷罨法を行つて安静にし、厚く繃帯をまいておきます。やがて疼痛を見はからつてマツサーチをいたします。このマツサーチは疼痛の全く去つたときに行ふもので圓を描くやうにして患部を十分、二十分つゞけて摩擦するだけで結構です。入浴の後ならば一層効果もあります。

痔の豫防と家庭療法

痔疾は古い時代からの病氣で、十人のうちで、七八人は罹病者であるといふことから推察しても如何にこの病氣が多いかと云ふ事が判ります。

原因は種々ありますが、多くは直腸炎、肛門周囲の創傷、大酒家、刺戟性の飲食を嗜む者、結核、心臓、肝臓病、妊娠等から起ります。其他遺傳からも來ます。

日本人には軽度の痔を患つて居る者が随分に多いやうです。

いぼ痔(痔核) 肛門の内外に大豆大のイボが生じて劇痛を發するのであります。歩行により擦れて上皮が破れると鮮血が出ます。そしてその肛門内に出來たものを内痔核と云ひ肛門外に出來たものを外痔核と云ひます。

あな痔(痔瘻) 肛門の内部が化膿して猛烈な痛みを覺えるのであります。このあな痔に又二通りあつて、直腸から臀肉を貫いて肛門の外圍まで口を開いて、其處から膿血が流れ出るのを之れを全痔瘻、又は不全外痔瘻ともいつて居ります。肛門の内部で行き止まりとなつて居るのを之れを不全痔瘻又は内痔瘻とも云ひます。

裂痔硬便等のために起り易いもので肛門の周圍が裂瘡を生ずるのであります。苦痛は激烈を極めて往々少量の出血を見ることがあります。

ぬけ痔(脱肛) 肛門が脱出して元のやうにおさまらぬのであります。辛ふじて納めても少し體を動かせば再び忽ち脱出します。摩擦や壓迫等によつて往々出血することが多く、全身貧血を起す恐れがあります。又疼痛が劇しいので卒倒することもあります。この痔は時によると危険なる膿毒症を續發するものです。

以上の外にぬけ(直腸脱)といつて直腸加答兒や便秘から來る痔もあります。

尤もこの直腸即ちぬけは大人にも無い事はありませんが、概して小兒の方に多いものであります。又婦人が妊娠時に痔を起すことがありますが、之れは分娩を終ると大抵治ります。

手當法 必ずしも自宅療法で治らぬといふ病氣ではありませんから、療法宜しきを得れば段々と治癒します。しかし重症のものは醫師の診療を受けるはよいが、醫者は大抵手術を施します。手術の結果は完全にゆく場合と、時とすると、結核性の痔核を手術したために痔の方は治癒したが一方にある結核が重症に陥つて遂に一命を失つた等のことは屢々あることです。

(1)原因を治すことが最も肝要です。

- (2) 消化し易い淡白食を攝つて少量で且軟かい便を通ずるやう注意すること。
 - (3) 刺戟性の飲食物を絶対禁すること。
 - (4) 運動を禁じて安静にすること。
 - (5) 林檎、梨、桃、ブドウ等の果物は宜しきも柿は絶対に食せぬこと。
 - (6) 酒は特に本病に有害であります。餅類も成るべく避けること。
 - (7) 入浴は何浴でも効果があります。特に温泉浴は非常に有効であります。
- 痔出血** 原因は痔が肛門内部に於いて摩擦や壓迫等のために裂瘡を生じて起ります。病状は肛門から多量の出血を漏出するのでそれがために貧血を起し往々卒倒することがあります。手當は安静にして身體を温めます少量づゝの出血でもなか／＼油断が出来ません。其の漏血が化膿すると恐るべき肛門周囲炎等を發しますから注意を要します。

皮膚病

◇疥癬の家庭療法

疥癬蟲は、表皮を深く斜に喰入つて寄生してゐるもので卵を生んで蕃殖します。寝具、座席、電車の釣革等から傳染し、また馬、犬、兎等からも傳染することがあります。多く指の間から始まつて全身の皮膚の軟いところを襲ひ、腕首、肘窩、腋窩、下腹部、陰部、腰部、臀部を冒し、小丘疹水疱または膿疱が出来ます。

手當法 成るべく硫黄泉の湯に入浴し、専門醫にかゝれば一週間ほど癒ります。

薬は、ミチガールベルバルサム油、または1%のエピカリン軟膏を塗擦します。

◇白癬の家庭療法

白癬菌と云ふ絲狀菌から來るもので發生する場所によつて名前が異ひ、しらくも、はたけ、水蟲たむし等と呼ばれてゐます。

頭の白癬は、學齡兒童に多く、男兒に多くて女兒には割合に少く、一錢銅貨大の斑點が現れ、その上に微細な灰白色の粉が付き、はたけは頸筋や顔に現れます。

手當法 頭皮を清潔にして、時々加里性の石鹼で洗ひ、十倍の硫黄軟膏を塗布します。顔面のものには、廿倍のサリチール酸酒精、または廿倍のナフトール酒精等を塗るとよく、小兒のやうに皮膚の柔いものは、ラノリンバスタの如き、作用の弱いものが無難であります。

◇頑癬の家庭療法

股間に出来るもので普通(いんきんたむし)と云はれてゐます。やはり白癬菌から發生します。多く男子の股間に出来て、陰部に亘り、暗紅色の口疹で、非常に痒く、圓い形をしてだんくんと周圍へ擴がつてゆきます。

手當法 入浴時は手拭ひに注意して、豫防すること、5%の硫黄軟膏、5%のテール軟膏を用ひます、後石鹼で洗滌することも有効であります。

◇水蟲の家庭療法

手や足や、指の間に、粟粒ほどの水泡を生じ、それが痒くなつてだんく数が増えると、小水泡が融合して、大きくなり、厚い皮でも剥けてしまひます。

同様の病状で、無菌のものがあり、これを汗疱疹と云ひ、普通はこれを一緒にして水蟲と云つてゐます、頑固で屢々再發します。

手當法 水蟲は濕氣を好み、コンクリート建築の中で靴をはいてゐる様な場合、水仕事などのときに罹り易いものであります。

固練白粉 白ベンキ等をぬりますと不思議によく治ります。また昇汞水七百——八百倍をガーゼに浸して、指の間に挟んでおきますと、頑固なものでも十日位で治ります。

◇ねぶと面疔の家庭療法

皮膚の毛孔、汗孔等の小さい創痕や、搔いて傷けたところなどから、化膿菌が入つて出来るもので皮膚の清潔を怠る人、糖尿病や腎臓病のある人に出来易いものであります。

このねぶとのよく出来るところは、顔や頸、上下肢、臀部、腋窩等で、初めは少し痒みがあり、その中央に、多く産毛か毛髪を抱いて、小さい紅點が現れ、二三日のうちに發赤腫張して痛み出して來ます。そして膿栓がだんく軟化して潰れると膿が出ます。外科的に切開すれば、排膿して

治りますが、これが顔に出来ると、面疔と云つて時によると膿膜炎を起し、化膿菌が猛悪で、血の中へ傳播し蕃殖すると恐ろしい敗血症を起しますから、早く醫者の手當を受ける方が安全であります。

手當法 最初の内は、ピツク氏硬膏を貼つておき、腫れが大きくなれば、硼酸水か、鉛糖水で瘳法をして模様を見、愈々症状が悪くなり、發熱したら危険ですから醫師の手當を受けた方がよろしいです。

◇くさ、胎毒の療法

くさ、胎毒なども、あせもや水蟲と同様に濕疹、なのです。皮膚病中最も多いものであります。原因には内部からのものと外部からのものとありますが、外因は濕熱、濕氣、日光、摩擦、搔破等の刺戟のため、また藥品水、石鹼、汗等の刺戟から起るのです。

内因としては、種々の刺戟に感じ易い體質のもの例へば小兒の滲出性體質の如き、また神経系及び血行器の異状、生殖器の障得、腎臓病、貧血、糖尿病等が原因して起る事があります。濕疹には

急性と、慢性とがあり、どちらも痒みが強く、そのために益々蔓延させます。

胎毒は、頭に来ると、水疱や、膿疱が出来る事が多く、毛が膿汁のために固りつく事があります。特に乳兒は、屢々頭と顔へ、急性の濕疹が出来て、それからさしるが出て、水疱とか膿疱を生じ、それが固つて厚い痂皮を作る事があります。

あせもは、夏の暑い日に、汗のために全身へ細かいブツ／＼が無数に出て痒くなります。

手當法 原因を除いて刺戟となる事を避けるが第一です、急性の痒みや、灼熱感のあるときは、一切の刺戟を避け、洗滌入浴も中止し、汗の出ること、温い食事や、温い室も避け、掻かない様にして、亞鉛華と滑石の等分劑を度々患部に撒布し、氣長に治療を致します。

◇とび火と其の療法

とび火は、初夏から初秋にかけて流行し、殊に酷暑の頃は、小兒に流行する事が多く大人でも傳染する事があります。

原因は、白色葡萄狀菌と云ふ細菌が皮膚に寄生するために、起るのです。初め小兒の皮膚に米粒

か、豌豆位の水泡が處々に出来て、周圍へ擴がり大小泡になる事もあります。

水泡ははじめ透明であり、後に濁濁します。それが破れると、汗を出し、乾くと痂皮が出来て治ります。多く顔、胸、頭、腹、背、四肢などに出来るものであります。水泡の汗がつくと傳染しますから、アルコールで消毒し、天華粉を塗布しておきます。

手當法 硼酸軟膏を厚く、フランネルに伸して、患部に貼つておけば完全に治ります。入浴中かさいふたを洗ひ落したりすると他に擴がります。

◇禿頭病とその療法

原因は、明らかではありませんが、傳染すると云ふ説と、神經障得で來ると云ふ説とがあります。が先づ傳染しないものと見て差支へありません。

この病氣は皮膚に何等の變化も現はさず、突然處々に圓形の脱毛部が出来て、重症のものは、急速に進行し、十數日で頭髮の大半が脱落するものもあります。

手當法 毎朝加里石鹼で洗ふ。一日一回グリザロビン〇・五一・〇、ワセリン三〇・〇の軟膏を

禿髮部に硬毛の刷子で塗擦します。

禿が大きい時は、小さく區切つて塗ります。

決して一度に全體を塗つてはいけません。薬が眼に入らぬ様注意し家庭療法はむづかしいからなるべく初期のうちに醫療を受けた方がよろしいです。

◇にきびとその療法

にきびの出来る原因はにきびは春機發動期に多く發生する皮膚病で、大抵十五歳位から廿五六歳までの、男女に出来るもので、成熟期になると、發育が旺盛になり、分泌が増すから出来易く、にきびの出来る人の皮膚は、色黒く表皮が硬くさうして皮脂に富んで油ぎつてゐます。

このにきびは、皮脂が多いから出来もので毛孔に一致して針の尖端ぐらゐの小さい黒點が出来、これを壓迫すると、小さい黄白色の塊が噴き出します。この塊は、主に皮脂や毛孔の附近の、皮膚の屑片が混つて居り、尖端の黒點は、脂肪が空氣に解れて、變質したものであります。要するににきびは、皮脂が増生し鬱滞し、皮脂線の排泄管が鎖されるために出来るので、時として、このにきび

が二ツ三ツ合併して一塊となつてゐることが背部でよく見られます。

瘰癧はにきびの親玉で毛孔とかにきびが化膿して生ずるもので、皮脂の分泌が多過ぎるためです。にきびと一緒に出来てゐる事が多く、その大きさは米粒大から小豆くらゐで、色は赤く隆起し、尖端に膿を持ち、癒つたあとが、褐色の斑點となつたり、あばたのやうになります。

原因は胃腸の病や便秘が動機となる場合もあり、また月経異常、子宮病に因ることもあります。

◆にきびの手當法

生活を改め食べものに注意して、便秘を整へ、豆類や果實を食べ、運動したりすることは豫防の第一義であり、また治療の前提であります。局所的ににきびは爪で搾らずに面皴挫匙で壓出し、石鹼で洗ひ後をベンジン・アルコールで拭きます。瘰癧の方は加里石鹼で洗つて後をベンジン・アルコールで拭き、洗顔料として、沈降硫黄六・〇、樟腦〇・五、アラビアゴム一・〇、石灰水七五・〇、薔薇水七五・〇の合劑を用ひ、脂氣の多い人は、肉食を減じて野菜、莢物(豆類)果實類を多くし、酒類、刺激性のもの鹽氣の強いものを控へるやうにするによろしいです。

内服薬としては、整腸の目的に、乳酸菌製劑「フトルミン」「ピオフェルミン」等、酵母製劑アベチン、沃素劑ツカモール等の服用を推奨します。

◆多汗症わきがの療法

原因は生來の體質によるのでありますが、神経質の者に概して多い様です。傳染性はありません。病狀は腋の下に出る汗が多量でそれが分解作用によつて一種特有の臭氣(狐に近よつた時匂ふやうな嫌なほひで狐臭と云ふ別名もある位です)を放つのであります。

又腋下ばかりでなく股や陰部に異臭のある人があります。裾脇臭と云つて、これは男子よりも婦人に多いようです。

わが國ではこの腋臭は一般に非常に嫌はれてゐます。ことに夏季には汗が多くなつて、その上着物が薄着となるのでいよゝその臭氣がはげしく發散して交際上實に堪へられない不快があります。その當人もつらいでせうが、他人はそれよりも以上不愉快なものです。

手當法 極輕いのは度々入浴してさへゐれば外から氣が付かぬ位にはなるものですが、完全には

なか／＼治り難いものです。

一時的防臭劑としては二十倍のクローム酸水か又は十倍のフォルマリン水を塗布するとよろしい汗腺組織を萎縮させる目的でラヂウムレントゲン放射も大に効を奏します。根本的には體質を改良するか、或は患部の皮膚切除術を行ふのであります。

◇あざ、赤鼻の療法

あざの原因は不明です。先天的に生來出來て居るものがあり。又は或る年齢に達して出来るものがあります。

病状は皮膚の一部に色素が集まつて出来る一種無痛性の血管腫であります。その構成形状、分布の状態等は大變複雑して居り簡單に分類することは一寸面倒なものであります。

俗にいふ、クロ瘡は褐色の圓形をなした斑點を皮膚の表面に現はすもので、これを色素性扁平母斑と稱へます。更らに皮膚面から多少隆起してゐるイボ状のものがあり、又有毛母斑或は獸皮母斑と云つて母斑の上へ毛髮の増殖を加へるのがあります。其の他又赤痣（赤色又淡紫色もある）即ち

血管性母斑といふのがあります。これは血管の擴張と新生によつて出来るものであります。

手當法 種々ありますが電氣分解法、レントゲン線照射、ラヂウム等は何れも好結果を得ます。

濃厚の色素沈着を有するものが着色著しく、深老性である時とかまたは速かに成長して悪性に變る疑ひのある場合には直に外科的手術によつて切除剔出の必要があります。

初期輕症のものは次の外用塗布薬で治ることがあります。

イヒチオール 五、〇

ラノリン 一〇、〇

ワセリン 一〇、〇

右混和塗布料

赤鼻の原因 大酒、胃腸病、婦人病、生殖器病、心臟病、貧血、唐辛子中毒、常習便秘、等から起ります。

病状は初め鼻の尖が紅く恰度霜やけのやうになります。これは血管が擴張するので、だん／＼

進んで来ると皮膚や皮脂腺が肥大し鼻は腫れ上つて瘡となります。

手當法 先づ第一に其の原因となつてゐる病氣の治療をいたします。

軽いのは平常便通を整へて患部を清潔にし、よく洗つて後クリームを塗擦して居れば自然に治つてゆきますが、重症のものは専門醫についてレントゲン光線法或はラヂウム療法或は太陽燈照射法など試みて貰ふとよらしい。勿論寒氣に顔をさらさぬやうにせねばなりません。

◇荒症の手當法

荒症とは顔が非常に乾いて荒れる病氣で大拔斑面狀に起ります。原因は皮脂の分泌が不十分であるのと、顔の手入れが不十分であるか、間違つた方法をとるために起ります。

例へば脂氣が少いのに洗顔をたび／＼してアルカリ性の石鹼など使つたり、刺戟性の化粧料を亂用したり、粗悪な白粉を用ひると、皮脂が益々減少して顔は乾燥し、極く細い落屑が起つて軽い痒みを覚え、或は顔がほてる様になります。

手當法 荒れの劇しい時は水や石鹼その他の原因となるものを避け、油劑を使つて、ガーゼが脱

脂綿で時々顔を拭き、その後で餘分の油氣を綺麗に拭き取つておきます。これで効果のない時は次の膏藥をぬります。

白降水 一、五—三、〇

アンドラゾール 三、〇—五、〇

ラノリン 三〇、〇

以上を合せたもの。

洗顔は微温湯に少量のリスリンを入れて用ひ、後でベルツ水を塗つておきます。

* * * * *

養生に志あらん人は、心に常に主あれば思慮して是非をわきまへ、怒りをおさへ、怒をふさぎてあやまりを僅し。心に主なければ思慮なくして怒と怒をとらへず、恚にしてあやまち多し。

— 古人の養生訓 —

性

病

科

性病と其の豫防及手當法

性病又は花柳病とは有毒の異性に接した時に其局部から感染して起る病氣のことであつて、淋疾、軟性下疳等がそれです。

一度感染しますと、其局部に病變を來し、進んで全身病を引起し、遺傳性に子女に及ぼす様になります。

今は文明の世となり、此の病氣の恐るべきを知り、公私ともに豫防しつゝありますが、非常な勞をもつて蔓延しつゝある有様です。

故に本病を充分に知悉して豫防撲滅を期すべく努力しなければなりません。

梅毒とその療法

◇第一期梅毒硬性下疳

病狀 病原菌が最初に侵入した局所の皮膚面に、腫物が出来ます。これを硬性下疳といひ、これが發現して初めて梅毒に罹つたと云ふ診斷がつくのです。梅毒は大ていの場合に性交によつて感染するので、随つて、陰部にこの病變が發見されますが、病毒さへつけば何處でも、ところ嫌はず發生します。例へば接吻により唇、頬、授乳によつて乳首其他指頭等にも見ることがあります。この發生は病毒侵入の機會があつてから、凡そ三週間を経て現れるものです。

そこで發赤して麥顆位の硬い心が出来て、間もなく表面がくづれます。その瘡の面から出る汁を顯微鏡で見ると、強い傳染力をもつた病菌を無數に發見いたします。時には一寸硬變するのみのこともあります。それから間もなく、附近の淋巴腺、多く鼠蹊腺が胃され横痃が現れます。これが出來れば梅毒も血液中に入つた證據でこれより二期にうつります。

◇第二期微毒

微熱が出たり、気分が悪く、食欲も進まなかつたりして、愈々全身病としての症状を現して來ます。感染後九週間位すると種々種々な皮膚疹が出て來ます。時には丁度麻疹の様な大きい紅い斑點が大概は薄つたりと、時には濃く現れ、ニキビの様なものや銅紅色にややく重く盛り上つて肛門には扁平コンデロームと云ふ疣瘡に似たものが出來、悪性は膿んで來ます。

元來この病氣の皮膚疹は痒くも痛くもなくその上捨て置いて自然に消失してゆくものです。微毒の性の悪いのはこゝにあるので苦しい時は誰でも手當をしますが痛まないとかく抛り勝てずそのうち病が出没して、爪が膿んだり、咽喉が痛んだり、聲がかけたりします。次に脱毛します。先づ半月内外の時はげしく、バラ／＼と頭髮がぬけ、多くは髪がうすくなりますが、男子では後頭部一面むらになり、女子では、生際が際立つて薄くなります。其他白斑等も生じます。

◇第三期微毒

微毒と知らず手當もしないと二三年は第二期の状態ですが、到底無頓着になれない病變を起しま

す。發疹は大きな腫物となり、ひどくなると劇的な破壊を起します。骨が腐り鼻が落ちたり第四期に入ると腦微毒なども引き起し直接生命にかゝります。

◇微毒の根本治療法

微毒を治療するには、その局部の治療をすると同時に、全身から病毒驅除することをせねばなりません。局所の手當はその現はれた場所々々によつて相違するから、一々此處では説明しませんが根本療法としては、内部からの謂所驅微毒を行ふことが大眼目です。此の療法の特効劑としては、サルバルサン、蒼鉛劑、水銀劑此の外沃素劑は是非必要なものです。

サルバルサンの發明せられた當時は、此の六〇六號を一、二本も注射すれば微毒は直ぐ根治するものゝやうに宣傳せられたが事實はさう簡單に治るものではなく、病狀によつては幾十本とつけて、同時に沃素劑や水銀、蒼鉛劑を併用することによつて初めてこの猛惡な病を全滅されること

◇サルバルサン療法

俗に云ふ六〇六號は、非常に毒性の強い、砒素の化合物ですが、人體に無害で、病菌には極めて有害の様に出来てゐます。用量は、體質の強弱に依り、多少の差はあれど、大體に於て、第一期微毒には五本以上、第二期には十本以上、第三期に同様で、同時に、蒼鉛劑水銀劑の注射、ことに沃素劑の服用が必要であります。

◇水銀劑療法

是は古くからある驅微毒で、以前はこればかりで使用したものです。微毒の局部療法には最も良いと云はれてゐます。使用法は、水銀軟膏を、自分の手で、皮膚の柔いところへ毎日三十分間宛すり込み、六日間を一廻りとして六週間を一期とします。

◇蒼鉛劑療法

これを應用しはじめたのは、最近の事です。妊婦の微毒、神經微毒、或は小兒に使用して安全な方法で疼痛がないため、用ひられてゐます。使用法は、一週二回位臀筋肉に注射します。此の場合にも沃素劑の併用を忘れてはなりません。

◇沃素劑療法

以上三種の特効薬にはそれ／＼一長一短を有してゐる。沃素劑はサルバルサンの如く急速の效果を見るものではないが、内服によつて病毒を驅除する特効薬としては缺くべからざるものであります。此の沃素劑は新陳代謝機能を高め、護膜腫の如く硬結して血液の浸透しにくい部分をも軟化吸収する卓効があるから、病氣の各期殊に第三期に應用して著しい効力があるものです。なほ此の沃素劑を用ひる場合に前期の三種（サルバルサン其他）を併用すれば一層根治を早めます。

◇淋病と其の療法

男子が本病に罹ると尿道から膿汁が始め放尿の時痛みを覺えます。猛烈に痛むのが普通ですが灼熱の感じや時にそんなでない時もあります。はげしい時は血膿が出たり、局部が腫れ上つたり、發熱したりします。これを急性尿道炎と云ひます。慢性になると膿も出ず、腫れも痛みもなくなり、ます。それでも病菌は尿道の粘膜炎や皺の中に潜んでゐて、季節の變り目や、酒類等多く攝ると頭を擡げて活動します。本病も初期に醫師にかゝれば、治りますが、拙い洗滌で病菌を内部へ追こむと

副腎炎や攝護腺炎を起して、七轉八倒の苦しみを管め、其上子供を得られなくなります。
女子の場合良人から感染し、良人が急性であれば妻も急性で現れ、良人が慢性なら妻も慢性で、感染しても知らずに過し手當を怠り易いものです。婦人は直ぐ生殖器を胃され、従つて全身に傳染する危険も著しいのです。

女子は感染の場所が廣く大別すると(一)下部生殖器の癩疾(陰門、腔及び子宮頸管、子宮頸を胃すもの)(二)上昇性癩疾(子宮體、喇叭管、卵巢及び骨盤、腹膜を胃すもの)。

尙、女子の癩疾合併症としては、次の様な病状が現れます。

陰門癩疾 少女に多く、或人は妊娠の時來る事があります。四日位立てば治り始めます少女は疼痛や不快な感じが長く、淋巴腺が腫れて膿が長く出ます。

尿道、尿道口 急性なら五六日で膿が出ます。初め小便の時灼熱感があります。三四日後には殆ど何の感じもなくなり、捨て置いて治る時があります。

バルトリン氏腺 排泄管の粘膜が腫れて、排泄孔が塞され、分泌物が滞ります。慢性になると治

り難く、時々症状が悪くなり、その度に病氣の場所が大きくなり、遂に大陰唇の後部が腫れて、小陰唇の内部まで侵蝕されて、孔があつて膿が出るやうになります。

腔 少女の感染は陰門部と同時に來ます。下腹部と腔とに疼痛が起り、動くとき一層はげしくなり局所の粘膜は、赤くなり、知覺が過敏で、初めは薄く、遂には濃い膿が出ます。

癩毒性子宮頸部炎 急性と慢性の二種あり急性ですと子宮腔部が非常に腫れ、子宮口から黄色い膿汁が多く出るやうになります。また子宮頸部の粘膜が外へ溢れ出てしまふことがあります。慢性になれば分泌物が膿か粘液様となり粘膜が糜爛します。痛みもなくなり、分泌物もすれ何の病氣も分らずして一命を落す様な事があります。

子宮體癩疾 粘膜の分泌が多いため、子宮壁がはれて、腹膜を刺戟し痛みます。熱も出ます。進むと喇叭管を胃し、妊娠時に感染すると、流産し易くなります。また月經時に非衛生的な處置をすると、恐しい子宮筋炎となる事があります。

喇叭管癩疾 子宮頸管炎から一二週間もすると自然に此の病氣になり、白帯下があり、突然下腹

部の左右何か片寄つて痛みます。喇叭管が胃された證據で悪くなると諸病を誘發します。

◇男女淋疾の治療法

本病の治療はなか／＼六ヶ敷問題です。痲菌其ものの性状も千變萬化で手當もそれ／＼の場合に適應してゆかねばなりません。決して一藥一劑では不可能です。微毒の様にサルバルサンの様な特效劑を發見する域に達してゐないので。故に醫師により根本療治する事が必要であります。

軟性下疳と療法

病狀 軟性下疳菌が皮膚の小さい傷に附着すると、凡そ一週間後にその部分が赤く腫れ、黄色い膿をもち押へて見ると痛く、三四日と經つにつれて、痛みを増し赤みも増します。傷はだん／＼深くなり。黄緑色の膿をもち、穢くなり、七日位立つと大抵鼠蹊部の淋巴腺に移りそこが腫れます。放置すれば自然につぶれる事もあり毒が深くなつて重症となるとなか／＼治りませぬ。さてこの病氣は硬性(微毒)と類似してゐるので軟性かどうかをよく診斷して貰ふ事です。それに應じて適當

の治療をいたします。

混合下疳即ち微毒と軟性の兩病原菌が、同時に局所に侵入した場合に、混合下疳となつて現れます。病狀は感染當時は軟性下疳の様で二三週間經過した後、そのまゝ固くなつて硬性下疳の症狀を表して來ます。混合下疳の場合には、單純傳染の時よりも、第一微毒の潜伏期が短く、比較的早く現れます。他の微菌でも同じ事で、單純なものより繁殖が早くまだ病狀も強いものであります

性病とその豫防法

豫防としては無傷で上等の新しいサツクを使用します。よく調べて使用しないと、使用中破れては無意味です。破損したものを知らずに使用しては、却て、油斷大敵となります。

理學的豫防法 として、ワセリン、ラノリン軟膏など用ひる方法があります。これは皮膚を傷けないための理學的方法で殺菌劑ではありません。

放尿豫防法 あとで必ず放尿しますと淋毒に比較的有効ですが、時がたつと無効です。

甘汞軟膏（甘汞、ラノリン、ワセリン、各一〇、〇〇）三三%を十五分以内に局所へ一分間塗擦します。この豫防法は特に黴毒を豫防すると云われてゐます。
尿道洗滌法 過満飽酸加里、昇汞、リゾール、フロタゴール。アルバルギン、硝酸銀などの千倍または一萬倍の水溶液で、十分間以内に洗滌します。そして少し濃度のもので尿道内を洗ふ様になると、非常に有効です。

精力缺乏症とその療法

この病は俗に腎虚と申します。精神的にも性慾が衰へる病気で、青年が本病に罹ると、神経衰弱になり易く反對に神経衰弱がこの病原となることもあり得ます。

原因 生れつきのこともあり、消化器、腎臓、糖尿、脊髄、慢性淋、黴毒の病から誘發されたり薬物の中毒や、房事過度、自瀆、過勞などから來る時もあり、酒、煙草が原因のこともあり得ます。
手當法 まづ原因を確めて、それから治してかゝることです。攝生を守り、食物に注意し局所的

には、電氣療法、水治療法が用ひられて居ます。

遺精、夢精、早漏の療法

遺精とは、生理的でなく、何でもないのでに精の漏れるのを云ひます。夢精とは夢でそんなになる事を云ひます。共に神経衰弱や精力缺乏症其他の影響で起ります。普通一週間とか十日位の現象は生理的ですが、甚しいのは一夜に數回もあり、全身の力が脱け、非常に衰弱してしまします。そして頭痛、耳鳴り、倦怠などの症状を現します。

原因は自瀆、房事過度、生殖器病、神経系の疾患その他であります。早漏も途中で早く射出する病気でこれも前同様の原因です。何れも醫師の加療を受けることです。

膀胱の病と其の療法

◇腎臓結核と膀胱結核

何の原因もなく(例へば淋病の様な)尿が濁り出し、或は血尿が出たり、慢性の膀胱炎が現れた時は、第一に腎臓結核を考へねばなりません。そして直ちに一晝夜に出た尿の全量を醫師に送り、結核菌の有無を調べて貰ひ膀胱鏡検査を受け、結核病變、左右の腎臓機能の比較試験をして貰ひ、萬一腎臓結核にでもなれば、早く腎臓剔出手術を受けねばなりません。兩方が胃されてゐたら、腎臓の剔出は避けて、レントゲン、又はツベルクリン療法を行ひ、一般結核患者と同様な養生法をとりまします。

◇急性と慢性の膀胱炎

原因 淋菌侵入からよく起る病です。化膿性の細菌や諸種の原因でも起ります。

病状 特徴は會陰部や下陽部が痛むこと、小水が無暗に出なくなり、排尿中また直後、痛みや不快を感じます。尿の性質が變り、膿が出たり、血が出たりして患者は顔色が悪く食慾も衰へ、しきりに喉が渴き、熱が出て衰弱します。

手當法 急性は大抵一二週間で治り慢性は永びきます。悪くゆくと腎盂、腎臓炎や尿毒症を起し

て、生命の危い事もあります。手當としては安靜にして下腹を温め、刺戟物をさけ、牛乳、番茶、砂糖湯などのやはらかない飲料をとり尿毒を内部から流し出す様に心掛けます。

◇膀胱麻痺

原因 脊髄と腦の病、重症チブス、膀胱炎、神経衰弱、自瀆、房事過度から起ります。

病状 溜つた尿を、いかに出そうとしてもポチ／＼或は全く出ず、遂にだらしなくチビ／＼流れる病で細菌が尿を傳つて膀胱に入り、炎症を起し易いものです。

手當法 局所的には膀胱の筋肉を強くするため下腹部の冷水摩擦、或は電氣を用ひ、服薬もいたします。

◇膀胱結石

病状 腎臓結石が膀胱内に下つて、そこに止つてゐることもあり、膀胱内で、尿の成分が粘膜その他に附着して出来ることもあります。大きさは鶏卵大或はそれ以上になる事もあります。これが出来るると會陰部が痛み、排尿のとき突然尿が出なくなつたり、痛んだり血尿が出たりします。

手當法 醫者でX光線をとるか、膀胱検査をして見れば、一目瞭然と見せます。結石と分れば、石を砕く器械を入れて、細く吸ひ出し、また大きなものは手術して出し、其石がどこで出来たかを調べて、再び石の出来ぬ様手當いたします。

睪丸の病とその療法

◇睪丸莢膜炎症

急性は外傷、殊に挫傷から、また淋病で副睪丸炎を起した時など多く起ります。陰囊が赤く腫れて、觸れるとひどく痛み、多少熱が出ます。安静にして冷せば、一二週間で治りますが、少し性の悪い化膿性のものになると、痛みもひどく熱も高く、陰囊が破れて膿が出る様になります。早期に切開して膿を出します。そうでないと、時に慢性となり睪丸へ水がたまり、俗にいふ(陰囊水腫)になります。

◇陰囊水腫

睪丸の莢膜炎が慢性になつて起る以外に、小兒は生れる時の挫傷や、包莖で起ることがあり、大人は大部分淋病が原因します。症状は陰囊が片側か両側、漸進的に膨れて大きくなり、陰莖は縮まつて、放尿その他の邪魔になります。これに似た病に膀胱ヘルニアと云ふのがあります。手當法 子供ならば包莖を除くと自然に治ることがありますが、大抵は外科的療法が必要です。内服薬や塗布劑の姑息な手段は無効ですが、慰安的にやるのなら、イヒチオール軟膏を塗布しておきます。

養生の道なければ、生れつき強く、若くさかんなる人も、天年をたまたずして早世する人多し。是天のなせる禍にあらず、みづからなせる禍なり。天年とはいひがたし。つよき人は強きをたのみて慎まざる故に、よわき人より却つて早く死すなり。又體氣よわく飲食すくなく、常に病多くして短命ならんと思ふ人、かへつて長生する人多し、是よわきをおそれて慎むによれり。この故に、命の長短は身の強弱によらず、慎と不慎とによれり。

— 貝原益軒 —

傳 染 病

傳染病の概念

傳染病と云ふのは、肉眼を以つて見る事の出来ない極く微細の植物性(細菌)又は動物性體(原虫)が人に寄生し、此處に増殖して、その寄生主を害して病に陥れ、其の人から他の人に、次々と感染し、蔓延してゆく病氣の事でありませう。

是は昔人智未開で、此の微生活體を發見することも、その生活現象を極めることも、出来なかつた時代は、或は天の罰として、或は神の祟りとし、或は星の罪とし、或は土地や、水に其源を委ねてゐました。然るに西曆一六八三年、レウツエンヘック氏が單顯微鏡を用ひて、水中微生活體を發見してから、死物の腐敗や、酸酵の行はれるのは、是等の微生物によるものである事が解り、次

で一八四九年ボルレンデル氏が、脾胎痘に罹つた牛の血液を検査して、その中に桿狀菌のあることを發見したために、生活體にも寄生して病原となる事がわかり、越えて一八七八年以降、彼の細菌學者として一世を風靡したロベルト、コホ氏が出て、數多の傳染病原體を發見、且つ培養試験、動物試験等を發案し、其生活現象を明らかにして茲に細菌學が長足の進歩をなし、又同時に多數の篤學者が現れて、今日のごとく種々の傳染病原が明らかになつたのであります。

そこで今日までに明らかになつた傳染病の數は誠に多く、又種々の身體の部分に現はれるのであります。茲には一般の例に倣ひ、最も重大なる法定傳染病並びに是につくもの、及び其他二三を掲げ、同じ傳染病でも結核は主として呼吸器の時に嚙毒は、生殖器又は性病の部に、皮膚の傳染病は、皮膚病の頃にやられます。

傳染病の傳染する徑路

傳染病といふのは、各々特種の病原體が、人間の體内に入つて増殖するために起る病氣であります。

す。病原體は肉眼では見る事の出来ない、微細な一種の生活體であります。

◇傳染病の種類

種々ありますが、我が國で發するものうち、主なものを挙げますと。(一)コレラ (二)赤痢 (疫痢を含む) (三)腸チブス (四)バラチブス (五)發疹チブス (六)天然痘 (七)猩紅熱 (八)チフテリア (九)流行性腦脊髄膜炎 (十)ベスト (十一)流行性感胃 (十二)マラリヤ (十三)麻疹 (十四)結核 (十五)癩 (十六)トラホーム (十七)花柳病の十七種ですが、傳染豫防法でその豫防法を定めた傳染病は(一)から(十)までで、これを法定傳染病といつてゐます。以下個々の症狀について申し述べますものは(一)から(十二)までの病氣と創傷傳染病として最も恐しい丹毒と破傷風とについてであります。傳染病は経過の速かなのと、緩なものによつて、急性と慢性とに分けてゐます。一時に流行して、大いに人を脅かすのは、この急性の方であります。

◇傳染の徑路

次に、前にのべた病原體は何處にゐるか云ひますと、これは、その病氣にかゝつた人の、排泄

物、または血液の中にあります。例へば、

- (一)コレラ、赤痢、腸チブス、バラチブス等は糞便の中に、
- (二)腸チブス、バラチブス、ベスト等の末期は、尿の中に、
- (三)狂犬病、微毒は唾液の中に、

- (四)肺ベスト、肺結核、流行性腦脊髄膜炎チフテリア等は喀痰及び鼻、咽喉部の分泌物の中に
- (五)麻疹、天然痘、猩紅熱は、膿、痂皮、皮膚の落屑の中にをるのであります。

この病原體は直接傳染する他に、仲介物によつて傳播します。その主なる仲介物を挙げますと左の四種に分れます。

- (一)飲食物を介し、主として消化器から感染するものは、コレラ、赤痢、腸チブス、バラチブス。
- (二)塵埃、または飛沫により、主として、呼吸器から感染するものは、肺結核、流行性腦脊髄膜炎、及びチフテリア。

(三) 蚤、蚊、虱を介し、皮膚から直接に血液、淋巴液等に入るものは、マラリヤ、發疹チブス
(四) 罹病者と直接の接觸によつて感染するものは淋病、梅毒。

病原體が體內に入つて増殖しても病氣とならない場合が澤山あります。これを菌保有者と稱び、病氣を發した病人よりも、もつと危険なものとなされ、豫防上大いに警戒されてをります。

傳染病には通常熱を伴ひます。熱の出るときは、呼吸脈等が平常と異つてきますから、直ちにそれと判ります。また小便の色も變り多くは暗褐赤色を呈します。

傳染病の治療

◇コレラ

原因 コンバチルスと稱するコレラ菌の侵入によつて起ります、主に消化器を侵す恐るべき傳染病でありまして不潔な飲食物暴飲暴食等は誘因をなし、又蠅は傳染の媒介をします。

病狀 數時間乃至三日間の潜伏期を経て、頻回の吐瀉で始まり、下痢は米の磨ぎ汁の如く、一晝

夜數十回に及び、身體は水分の亡失によつて、速かに脱力します。手足が冷え、眼が落ちくぼみ、聲はかれ、脈は殆んど解らず尿が出なくなり、四肢特に下肢の腓腸部(脛の裏のふくらみ)に痙攣性の疼痛が起つて非常に苦しみます。これは重い方の症狀であります、又た普通の下痢と大差のない症狀のものもあります。其の外保菌者といつて外觀上は健康人と格別異なる所はありませんが唯便中にコレラ菌を排泄するものがあります。

手當法 安臥を命じて氷片、赤酒の少量を與へ腹部に溫巻法をいたします。疑似患者は強制的に傳染病院に收容されます。

豫防 流行時には生水を禁じ、生魚、生魚の料理(鮓、刺身)なども避け、焼くか煮たものを用ひる事にします。そして豫防注射を行います。

◇赤痢

原因 未熟な果物の食用、飲食の不攝生等から赤痢菌の傳染侵入によつて起ります。

病狀 三日乃至八日間、潜伏期を経て發病と同時に便通が多量となり、腹部がゴロゴロ鳴り、腹

痛を訴へ、順次下痢します。便は粘液を交へ、多くは血液を混じて來ます、時によつて臭い膿汁を加へ、便通の回数は一日に五六回、多い時は五六十回、又はそれ以上になります。左の下腹部に痛みを感じるると共に全身が倦るく、發病後間もなく脱力します。熱は三十八度位で、それ以上高熱にはなりません。患者によつてはシャクリ、嘔吐があつて苦しむ事もあります。経過は八日乃至十日位で衰弱して死亡するのがあり、又た中には數ヶ月繼續する慢性のものもあります。
脱肛、耳下腺炎等を併發し中には腸壁が破れて腹膜炎を起すこともあります。
手當法 法定の傳染病でありますから隔離入院消毒等をするようになります。

◇疫痢

原因 不良の飲食物から起ります。

病狀 夏期小兒に多く發し易い病氣で大部分は二歳から七歳位までの小兒です。今まで達者であつた子供が急に不元氣になりグツタリして、ゴロ／＼轉がつてばかりゐたり、また欠伸ばかりして急に頭痛や腹痛を催し、嘔吐したり下痢したりします。體温は三十八度から四十度以上に及ぶ事が

多く、便は初め軟かい便通が二三回あり次いで水の様な便となりだん／＼粘液を交へて澤山の便通を見ます。便通も烈しくなれば痙攣を起したり、昏睡状態となり、腹部が膨滿し、遂に心臓麻痺を起して取りかへしの付かぬことになり、一般に経過は極めて急で發病してから一晝夜位の内に死ぬものもあります。

手當法 褥中に安臥させて腹部に温罨法を施し、下劑としてヒマシ油五瓦乃至十瓦を服させます (ヒマシ油はお茶か葛湯の中へ落してグツト呑むとよらしい)そして早く醫師の診察を受けねばなりません。

◇腸チブス

原因 チブス菌が飲食物に紛れこみ傳染して起ります。又その傳染は蠅の媒介によつて受けることが多くあります。

病狀 感染してから約二週間の潜伏期を経て發病します。發病の症候はいろ／＼であたかも普通の感冒と間違へ易く、この時期に無理な仕事や、暴飲暴食などすると、往々病狀を重らせたり、

腸出血等の不幸を見ますから疑しい時には、安静を守つて一刻も早く醫師に診て貰はなくてはなりません。

熱は朝と晩とは多少の昇降はありますが毎日少しづつ上昇して、七八日目には多くは四十度を超えます。脈は熱の高い割に少く四十度の熱でも九十位ある事が多く、これが本病の特長の一つであります。この頃から胸或は腹部に小さな赤い発疹が出ますが、直ちに消失しますから、餘程注意しないと見落すことがあります。七八日頃から十七八日目までは四十度位の熱がつゞき頭痛、不眠、食慾不振などをよく訴へ、頭に異状を來したり、心臓麻痺、脚氣衝心を併發することがあります。

發病時には寧ろ便秘の傾きがあつたのが、この頃から、下痢を始め、時には腸出血を起します。十七八日目からは階段状に熱が下降して二十七八日目頃に平癒するのが普通の経過であります。然し中には再燃と云つて體温が逆戻りすることがありますから、必ずしも腸チブスは四週間で平熱になるとは限らないのです。

合併症としては多く氣管支加答兒、肺炎等が起り易いから注意を要します。法定の傳染病ですから隔離、入院治療をすることになります。

注意 本病は回復期の食慾上の注意が最も大切であります。即ち回復期には非常に食慾が昂進して盛んに食を要求します。がもし患者の望み通り與へると、病は再發し、又腸出血を起して危険状態に陥ることが多いのであります。有熱中は勿論流動食にすべきですが重湯、牛乳、玉子等、他ビタミンを多量に含有する果物の汁を與へる事が必要であります。下熱してもまづ食物は三分粥、五分粥、七分粥、全粥と云ふ風に徐々に形のあるものを與へると患者は段々と元氣が出て來ます。尙不幸な保菌者といふものがあります。これは病原體を保有しながら、病状を呈して來ないもので、只大小便から病菌の排泄を見るばかりであります。これにまた二ツの區別があります。一は病後排菌者、一は健康保菌者であつて共に傳播に有力な關係を持つてゐるのであります。隨つて傳染病豫防法規にも保菌者は飲食物を取扱ふ職業及び公衆に接する業務の従事を禁じられ、又居住の場所を移さんとする時は届出でる事を命じられて居る位です。又保菌者は便所はなるべく専用とし用便の

都度便池に消毒薬を投入し、便所の手洗鉢には消毒薬を用ひ、大小便に汚れたものは必らず消毒することになつて居ますが、實際に保菌者の大部分が公衆浴場で入浴してゐる現状では何にもなりません。保菌者は各自社會におよぼす影響の大なる事を考へて菌の出なくなるまで、辛抱する事が大切であります。

一度本病に罹ると一生免疫を得るやうに考へるのは誤りで十年以内に再感染するものは稀であります。十年以後に感染する者は相當に多くあります。

豫防 食物に注意すること、生水、生野菜類を食せぬこと、魚肉類は充分に煮て食すること、飲食物や食器類に蠅のたからぬやう注意すること、罹病者にはなるべく接近せぬこと。止むを得ずして接した時は後必ず、衣類手指等の消毒を忘れぬこと次には豫防注射を行ふこと等でありませぬ。

◇バラチブス

これは「バラチブス菌」といふ、腸チブスとは別箇の病原菌によつて起る病氣ですが、症候、經過療法、看護等すべて腸チブスと同様であります。たゞ腸チブスより、危険の少ない病氣で、大抵の人

は、バラチブスだと聞けば安堵の胸をなで下す程です。

◇發疹チブス

原因 不明であります。強い傳染性を有つてゐて其の傳染によつて起ります。

病状 悪寒、戦慄について四十度乃至四十一度の高熱に昇り、頭痛、眩暈、食欲缺乏諸語等を發し、本病特有の淡紅色の發疹が初めは胸腹部から發してだん／＼と全身に擴がります。

發疹は一週間乃至十日間位で漸次輕快消散します。

熱が出るのは腸チブスより短く二週間前後ですが、腦症候は腸チブスより概して強いやうです。手當法 法定の傳染病ですから強制的に傳染病院に入院させられます。

流行時には、なるべく風を引かぬ様注意を要します。その他のことは腸チブスと同様です。

◇天然痘

原因 病原菌はまだ明かに分つては居りませんが、一種の毒素から傳染して起るといはれて居ります。

直接には勿論、或る中間物を介して傳染することがあり、又空氣からも傳染します。
病状 一定の潜伏期を経て發病しますと、初めは熱が出て腰痛がはげしく、次に發疹期に入り蓄疹期、水疱期、腦症期、乾燥期、落屑期など順次に経過します。重症のものは顔面が腫れあがり誰だか判別できない位になります。幸に治癒しても顔面其他に痘痕を残します。
又假痘といふのがあります。これは眞痘に對しての名でつまり假痘症は症状が眞痘の様に充分でないものを云ふのであります。

手當法 法定の傳染病ですから強制入院せしめられるので家庭では手當の必要はありません。

豫防 種痘をもつて第一とします。未痘兒は勿論痘瘡流行の微ある時は毎回種痘するのが安全です。痘毒は抵抗力が強く、又病毒は萬人感受性が強く、未痘兒は悉く病毒を受けます。そして未痘兒罹患の場合は七割以上は死にます。これは殆ど完全に豫防し得らるゝ傳染病であります。

◇猩 紅 熱

原因 バイキンの感染によつて起ります、傳染は直接及び空氣からもします。又布團、衣類、食

物等も傳染の媒介をなし其の他扁桃腺炎の手術後に續發することがあります。

晩秋から初夏にかけて流行性に發生して、二三歳から七八歳位までの小供が多く罹り、そして又経過が甚だ危険であります。

病状 四日又は八日間の潜伏期を経て發しますが、初めは一見風邪と間違ひ易い症状を呈し、急に高熱が出て、頭痛を訴へ嘔吐を伴ひ、舌は表面が粗造になつて莓の様になり、顔面は赤く、一見ユデダコ色ですが底はむしろ蒼白色を呈して居ます。

第一日第二日と順次、首、胸、腹、兩脚の内側と全身に赤い斑があらはれて來、最初咽喉に入つて腫れ、それから、扁桃腺を冒して來ますから物を吞込むのに苦しくなります経過中に急性の出血性腎臟炎を起すことがあります。

手當 餘病を併發し易い病氣ですから、これが最も危険です。特に注意を要します。

餘病を發せぬ限り五六日経てば熱も下り最初發疹の出來始めた所から漸次癒つて行きます。患者は靜かに臥させて下熱劑を與へ含嗽を頻回にやつて頭部へは氷罨法をつけます、そして多量

の牛乳を飲ませるとよいのです。

法定の傳染病ですから、入院治療をすることになります。

豫防 第一には患者に近寄らぬこと、外出先より歸つたなら直ちに手指を洗つて五十倍の食鹽水（又はオキシフル水（オキシフル一、〇常水四〇〇、〇混和）にて口中の含嗽をいたします。

◇チフテリア

原因 チフテリア菌の侵入によつて起ります。直接同病患者に接するか、或は玩具類を介してか、又は食物からも傳染します。その他扁桃腺炎からも來ます。

病狀 極めて強い傳染力を持つて居るところの急性傳染病の一種で、主に二、三歳から五六歳位の子供を犯す恐るべき疾患であります。

普通二日乃至一週間は潜伏してゐて、それから一般に全身症狀として次の様な徴候を發します。比較的、突然に三十八九度の高熱を出して來ます。脈搏が早くなり、呼吸も増して來ます。

食慾も減退して、子供は非常に疲勞を覺えて來ます。

一、二、三歳の子供では吐いたり、ひきついたりすることも度々あります。

併し胃される場所によつていろ／＼變つた症狀を呈して來るものです。

咽頭を胃された時、咽頭の疼痛即ちのどが痛くなつて、食物をかんだり、のみ下したりするときに痛みがはげしくなり、又頸全體が痛んで耳のあたりまで痛くなつて來ることもあります。四五歳位の子供には頭痛をも伴つて來ます。それから咽頭に義膜と云ふ白い膜がつかます。子供を明るい方へむけて舌のつけ根の邊を茶匙の柄で壓へて子供がゲツといふ時、よく見ると咽頭が赤くなつて扁桃腺が赤く腫れ、その上や、その附近に白いものが一ぱいくつついてゐるのが、よく分ります。それからまた鼻聲になつたり、聲がかれることもあります。顎下腺といつて唾液を出す腺や、淋巴腺がはれます。つまり顎の下や頸にぐり／＼が出來て、壓へると、そこが痛みます。尙ほ息が惡臭をもつやうになります。こういふ症狀のものは概して惡性のもので、よいつてよいのであります。

鼻腔を胃された時 最初から鼻腔が犯されることもあります。咽頭を胃したものが鼻腔の方に

擴つて来たものが多いのです。そして一般症状の外に次のやうな症状があります。

腦に血の混つた悪臭のある鼻汁が出ます。鼻の孔や上唇が糜爛することもあります。鼻呼吸がさまたげられるので口で呼吸するやうになります。乳児はそれがために乳を飲む事が困難になります。乳児は扁桃腺がまだ充分に發達しない處から、鼻に起すことが多いのですか、これが一寸一般には氣付かれないことがあります。鼻に來た時は熱もあまり高くなく、大抵三十七度二三分のことが多いのです。そして一般の状態もあまりひどくないので、重大に思はれない中に、急に心臓麻痺を起して倒れてしまふことがあります。

喉頭を胃された時 咽頭チフテリア即ち咽頭を胃したものが段々下につてくる場合が多いのです。稀に喉頭から胃されることもあります。先づ聲がかすれたり、かれたりして恰度犬が吠えるやうな咳をし、呼吸困難を起します。息を吸ひこむ時に笛を吹くやうな音を發するやうになり、唇や手や足の尖が暗紫色になります。又息を吸ひこむとき肋骨と肋骨の間が凹没するやうになります。その外稀には皮膚、粘膜を胃してくるものもあります。

次はチフテリアにかゝつて是非とも見のがす事の出来ないものは、發病後二三週間立つて、外見は殆ど治癒したと思はれる頃、チフテリア毒素のために起る處の所謂チフテリア性麻痺であります。この麻痺は主として口蓋帆（口腔の一番奥のところ）及び發聲に關係ある筋肉が麻痺してくるのであつて、そうなると飲みものが鼻の方へ出てくる様になり、氣管の方へ行つたり、むせたりするやうになります。その他眼の筋肉が犯されると物が二重に見えたり、まぶしかつたり、足の筋肉が胃されると足がプランとなり、頭の筋肉が犯されると、頭が前方へのめつたりすることがあります。若し横隔膜（胸と腹との境にある筋肉の膜）が胃されると、忽ち死に至ります。

注意 危険なこの麻痺を豫防するには出来るだけ安靜にして、堅い食物をかんだり、長時間に亘つて話をしたり、病床を早くはなれて手足を動かし過ぎたりしないやうにする事が最も肝要です。このチフテリアは早く見付けることが大切で、先づ見付けたならば、速かに醫師について、血清注射を受けるとよいのです。手遅れさへなければ必ずすぐ直ります。

豫防 豫防注射を行つて常に硼酸水又は食鹽水で含嗽をする事です。

◇流行性腦脊髄膜炎

原因 細胞内腦膜炎球菌によつて起ります。秋季にかけて流行性に來ることが多く、そして老人は割合に少なく、年少者、小兒が多く胃されます。

病狀 急に惡寒がして四十度以上の高熱が出て、頭痛、眩暈、嘔吐等を發し、次いで脊椎に疼痛を覺え、項部、頸筋が後方へ硬直し頭部を前後に動かし難く、次第に全身の諸筋が痙攣を訴へ、視神經、聽神經の障害、眼筋、顔面神經の麻痺等を來すのであります。

手當 暗黒な室内に靜かに安臥させ、項部脊柱等に氷嚢をあてます。速かに醫療を要します。此の病氣は法定傳染病の一つであります。

豫防 流行時には外出先から歸つたならば必ず含漱をすること、又患者に接近しない事等です

◇ペスト

原因 ペスト菌の傳染侵入によつて起ります。鼠族及蚤が多く傳染の媒介をなし、皮膚粘膜炎の創傷部から病原菌が侵入します。其他空氣から傳染することもあります。

病狀 腺ペスト、肺ペスト、皮膚ペストの三種があります。

腺ペストは鼠蹊腺、股腺(股のつけ根の處)にグリ／＼が出來て、それが腫れて疼痛がはげしく頭痛、眩暈、全身倦怠等を訴へ、高熱を發します。又頸腺、腋窩腺が初めに腫脹するのがあります。肺ペストは普通急性肺炎の型で發病し四十度以上の高熱を發し、咳嗽、呼吸困難、咯血、譫語等を起し精神朦朧となります。満洲邊によく流行します。

皮膚ペストは俄然戰慄を始め三十九度乃至四十一度の高熱を發し、頭痛、嘔吐を訴へ、皮膚及び粘膜炎に出血を來すのであります。

療法 頗る恐るべき傳染病であつて、稀には恢復する者もありますが、七八割以上死を免れませんが、中でも肺ペストは悉く豫後が不良であります。

法定の傳染病ですから、真正症は勿論疑似患者でも傳染病院に強制的隔離されます。

豫防 流行時は鼠に注意し、又蚤の發生せぬやう清潔法を行ひ、身體は時々入浴して、すべて皮膚に創傷を受けぬやうに注意すること等が肝要であります。

◇流行性感冒（インフルエンザ）

原因 インフルエンザ菌が呼吸器から血液中に侵入して起るものです。

病状 初め悪寒に次で熱が三十九度乃至四十度に昇り、頭痛、腰痛、倦怠、食欲缺乏等の症候を訴へます。

本病には胃腸性、氣管支性、神経性と三通りの型があります。

胃腸性と申しますのは、胃腸カタルが重なる症候として來るもので、丁度チブス又は赤痢など、間違ひやすい状態で、腹痛、嘔吐、下痢、まれには黄疸を起すことがあります。

氣管支性といふのは、これは上氣道（鼻腔、咽頭、氣管支等）に加答兒を起す型で一番多いものであります。先づ咳嗽が出る、痰が出る、鼻汁が出る。咽喉が痛いと訴へるもので風引と油断してゐる間に、よく肺炎を起し易いのであります。

神経性といふのは、全身の筋肉や關節に痛みがあつて、腰痛や、はげしい頭痛を訴へ、丁度腹膜炎のやうな症候を示して來るものであります。婦人などは屢々子宮出血を發することもあります。

以上の様な型がありますがこれが必ずしも常に明らかに區別し得るとは申されません。各型が互ひに移行し、或は合併して來ることが多いものですから、多くの場合その症候が複雑して居ります。

併發症として起り易いのは肺炎、肋膜炎、中耳炎等であります。

そしてこの病氣は大人も小兒も胃されますが何れかと云へば抵抗力の弱い小兒の方が割合に多く胃されます。

手當 各々其の型によつて手當も異なりますが、家庭として必要な共通の手當はまづ病室を一定の溫度に保つと云ふことです。溫度は華氏五十五度乃至六十五度位が適當で、あまりあたため過ぎるのは却つてよくありません。そして室内暖房装置は電氣ストーブ等なら一番よいのですが、炭火で暖める時は必ず赤く火のついた炭を持ち入れることです。同時に空氣の乾燥をふせぐ爲めに火の上には必ず藥罐か金盞をのせて水蒸氣を立たせておきます。

日本間でしたら、これだけで結構ですが、若し洋間でしたら、時々換氣法を行ふ必要があります。

日本間でも目張りなぞしない方がよろしい。着物をたくさん着せすぎたり、蒲團を掛けすぎて、強いて汗をかゝせる様なことのない様にします。無理に汗を出させることは身體を非常に疲らせます。着物はたとへ病中でも度々取り換へて常に清潔を保たねばなりません。

手當法 藥物

△アスピリン

一、〇

白 糖

一、五〇

右分三包一日三服用

輕症のものは家庭の手當だけでも治りますが、悪性のものは安心出来ませんから一應醫師の診斷を受けるのが安全です。

注意 榮養不充分、睡眠不足、大酒、喫煙過度體力疲勞、其他胃腸の障害等は、全身の抵抗力を弱らせて、罹病し易い危険がありますから、注意が大切であります。

尙ほ流行性感胃には不思議にも日頃醫療に弱いものは割合に死なず、日頃健康を誇り、鬼をもひ

しぐやうな若い運動家がころりと死ぬ様な事實が多いのです。それは如何なる理由かと云ひますと健康者は病氣に對する免疫素がなく、それと反對に日頃病弱な者は常に風邪に悩まされ、インフルエンザ菌に對しても一種の免疫體を有し、軽いインフルエンザをやれば死ぬ様な感胃にはかゝらないと云われて居ります。

血液の中に糖分の多い人は概して風邪を引かず。糖分の缺乏してゐる人が風邪を引き流感の猛烈な流行時に於て體は、瘦せてゐても血糖の多いものは減多に罹らず、また反對に體格がよく丈夫さうな人でも血糖の少ない人は罹病して苦しむと云ふ状態を示して居ります。

豫防 豫防注射をして、外出時には「マスク」を用ひ、室内では日夜濕氣を含ませて、時々含漱をし、全身の抵抗減弱を來すやうな條件はさける様にいたします。

◇マラリヤ

原因 マラリヤは、間歇熱、おこりとも云ひまして、「マラリアプラスモーチエン」と稱する寄生物が血中に生息するために起り、蚊族の媒介によつて主に傳染いたします。

病状 初め悪寒戦慄が起り顔面蒼白色、手足は紫藍色となり、脈搏が百乃至百二十を算して、體温三十九度乃至四十度に昇り、一三時間の後、發汗し、次いで體温も脈搏も常度に復するのであります。發作時には頭痛、口渴を伴ひます。發作は毎日熱、隔日熱、三日熱等の別があります。

手當法 發作期には褥中に安臥させ發熱したら、頭部及心臓部に冷罨法をいたします。湯茶等の飲料は與へてもよいのです。

特效藥 「キニーネ」一、〇五若くは一、五を發作の三時間前頓服するとよろしい。翌日からは、矢はり「キニーネ」を一、〇五を三包に分ち四五日續けて服用すると効能があります。悪性でない限り生命上の危険はありません。

◇丹 毒

原因 丹毒菌の皮膚淋巴管中へ侵入によつて起ります。侵入の場所は主に創口又は皮膚に炎症のある部分です。蚤の螫した穴からも侵入することがあり鼻、耳、頬、唇等の微細な創からもよく入ります。其他消毒不完全な器具を使用する理髮店や髮結床からも往々傳染を受けます。

病状 非常に傳染力が強く、一ケ年を通じて機會さへあれば何時でも感染する病氣で、頗る始末の悪いものです。創から毒の感染を受けると一日乃至三日間位の潜伏期を過ぎて急に惡寒を發し、續いて三十九度以上の高熱が出て來て傷口の處が眞赤に腫れ上り、劇痛を覺え、嘔吐したり、食欲不振になります。感染後早いのは二、三時間、遅いのは三日目位からこの兆候が出て來ますが、赤く腫れ上つて、皮膚が光るやうに見えて、少し堅くなつて來ます。解つて見ると熱くて痛みます。即ち赤く腫れた部分は丹毒のバイ菌が繁殖した證據で、その周囲の健康な部分とはハッキリ區別がつけられます。

それから丹毒は顔面へ出るとなか／＼重態で、顔面の一部から起つた丹毒は擴がると、耳や鼻や唇、眼まで赤く腫れ上ります、手足の傷は割合に早く氣がついて消毒しますが、理髮店で受けた傷は自分で知らない時が多いために、手おくれとなるのと、擴がり方が早くて危険が多いのです。

手當法 近頃は療法が進歩して來ましたから、時期さへ誤らねば心配はない様ですが、油斷して手當がおくれると、一命を失ふことになります。熱が高くなつて來ると心臓を胃される危険があり

ますから早く醫師の診療を求むる事が肝要です。
家庭療法は絶対に不可能と云つてもよいのです。水銀石英燈の治療が常用されて居りますが、勿論これは醫師の領分です。

豫防 平常身體に傷をつけぬことが第一です。若し創を受けた時はよく消毒して、バイ菌の侵入を防がねばなりません。丹毒のバイ菌は空氣中に存在してゐて、電車の釣革、ドアの引手など多數の人の觸る所には常にバイ菌が附着してゐるものと思つて警戒を要します。丹毒に一度罹ると多疫性にならぬばかりか却つて感受性が強くなり、常習丹毒といつて菌と合ふ度に罹り易い體質となつてしまふことがありますから注意が肝要です。

◇破 傷 風

原因 傷口から侵入するによつて起ります。

病状 體温が四十度以上に昇り、全身が強直性筋痙攣發作を起し、食物は通らず、腹部は陥没して遂に死に至る危険症であります。

療法 速かに醫療を受けねばなりません。

豫防 創を受けたときは先づ化膿しないやうに注意することが肝要であります。創面に砂利とかゴミのやうなものが附着して居るときは、清潔な方法で靜かにこれを取り除いて後は創の周圍をアルコールでよく拭ひ消毒ガーゼを創の上に當て、軽く繃帯を施しておきます。絆創膏を貼ることもよいのです。

次には豫防血清注射を行つてをくことが萬全の策です。

昭和十四年七月廿五日
昭和十四年七月卅日
發行

定價貳圓

版權
所有

監修者 加藤正信

編輯兼發行者 河野清一
東京市神田區元佐久間町一〇

印刷者 成瀬義治
東京市本郷區湯島二ノ四

印刷所 本郷堂印刷所
東京市本郷區湯島二ノ四

發行所

東京市神田區元佐久間町十番
電話下谷(83)〇五九五番

河野成光館

390
375

終